ファイル変換

GD-80 シリーズ、V4 シリーズ、V6 シリーズは V7 シリーズに置き換え可能です。
ただし、必ずしも 100%互換を保持できるわけではなく、多少制限や置換不可能な機能もあります。
本書では置き換えの際の注意事項について説明します。

GD-80 シリーズ、V4 シリーズ、V6 シリーズの機能・仕様について、詳しくは別途『GD-80 ユーザーズマニュアル』、『V シリーズ　リファレンスマニュアル』など関連マニュアルを参照してください。

発紘電機株式会社

改訂履歴

取扱説明書番号は、本書の裏表紙の左下に記載されています。

印刷日付	取扱説明書番号	改訂内容
2004 年 11 月	5052NJ0	初版

目次

V6 シリーズ→ V7 シリーズ 1
推奨機種 1
ハードの互換性 3
V612 → V712iS/V712S 3
V610S → V710iS/V710S 5
V610T/V610C → V710iT/V710T/V710C 7
V608C → V708C 9
V606i /V606→ V706+DU-01 11
V606i/V606 → V706 13
ビデオ入力機能の変換に関する注意 15
色について 15
描画について 15
SVGA タイプ（800 × 600 ドット）でのビデオ表示スピード 15
画面データファイルの変換方法 16
データの互換性 17
XOR 表示 17
基本 8 色以外の XOR 表示も V6 互換で使用するには 18
設定手順 18
内蔵メモリカードインターフェース 19
CF カードに置き換える場合 19
画面データの変換 19
メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合） 21
CREC に置き換える場合 23
画面データの変換 23
SRAM カセット 24
SRAM データの転送 24

V4 シリーズ→ V7 シリーズ 27
推奨機種 27
ハードの互換性 28
V4 → V710iT/V710T/V710C 28
V4S → V706+DU-01 30
V4S → V706 32
画面データファイルの変換方法 34
データの互換性 35
内蔵メモリカードインターフェース /GD-MREC02 36
CF カードに置き換える場合 36
画面データの変換 36
メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合） 38
CREC に置き換える場合 40
画面データの変換 40

GD-80 シリーズ→ V7 シリーズ 41
推奨機種 41
ハードの互換性 42
GD-80T → V710iT/V710T/V710C 42
GD-80S → V706+DU-01 44
GD-80S → V706 46
GD-81S → V706+DU-01 48
GD-81S → V706 49
画面データファイルの変換 50
画面サイズの調整 51
データの互換性 52
互換機能 52
互換にならない機能 60
GD-MREC02 からの変換 64
CF カードに置き換える場合 64
画面データの変換 64
メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合） 66
CREC に置き換える場合 68
画面データの変換 68
メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合） 68

V6 シリーズ→ V7 シリーズ

推奨機種

V6 シリーズを V7 シリーズに置き換える場合、推奨機種は以下のようになります。

	V6 シリーズ機種	V7 シリーズ機種	オプション
12 インチ	V612xx0	V712iS V712S	–
	V612xx0D	V712iSD V712SD	–
	V612xx0M	V712iSM V712SM	–
	V612xx0MD	V712iSMD V712SMD	–
	V612Tx1	V712iS	EU-00
	V612Tx1D	V712iSD	EU-00
	V612Tx1M	V712iSM	EU-00
	V612Tx1MD	V712iSMD	EU-00
10 インチ	V610Sx0	V710iS V710S	–
	V610Sx0D	V710iSD V710SD	–
	V610Sx1	V710iS	EU-00
	V610Sx1D	V710iSD	EU-00
	V610Tx0 V610Cx0	V710iT V710T V710C	–
	V610Tx0D V610Cx0D	V710iTD V710TD V710CD	–
	V610Tx0M V610Cx0M	V710iTM V710TM V710CM	–
	V610Tx0MD V610Cx0MD	V710iTMD V710TMD V710CMD	–
	V610Tx1	V710iT	EU-00
	V610Tx1D	V710iTD	EU-00
	V610Tx1M	V710iTM	EU-00
	V610Tx1MD	V710iTMD	EU-00
	V610Tx2	V710iT	EU-01
	V610Tx2D	V710iTD	EU-01
	V610Tx2M	V710iTM	EU-01
	V610Tx2MD	V710iTMD	EU-01
8 インチ	V608C10	V708CD	–

	V6 シリーズ機種	V7 シリーズ機種	オプション
5.7 インチ	V606iT10	V706TD	DU-01
	V606iT10M	V706TMD	DU-01
	V606iC10 V606C10	V706CD	DU-01
	V606iC10M V606C10M	V706CMD	DU-01
	V606iM10 V606M10	V706MD	DU-01
	V606iM10M V606M10M	V706MMD	DU-01
8 インチ	V608CH	–	–
9 インチ	V609E	–	–

ハードの互換性

V612 → V712iS/V712S

項目	機種	
	V612	V712iS/V712S
表示デバイス	• TFT カラー：V612T • STN カラー：V612C	TFT カラー
有効表示領域	12.1 インチ	12.1 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	313W × 246.2H	313W × 246.2H
表示分解能（W × H）	800 × 600 ドット	800 × 600 ドット
タッチスイッチ方式	• アナログ	• アナログ
	• マトリックス	• マトリックス
取付角度	0 ～ 135°	15 ～ 135°
プリンタポート	CN2： セントロニクスハーフピッチ 36 ピン	PRINTER： セントロニクスハーフピッチ 20 ピン
プリンタケーブル	弊社製 V6 専用ケーブル •「V6-PT」 •「V6-PT-CBM」：CBM292/293 用	弊社製 V7 専用ケーブル →「V7-PT」 →「V7-PT-CBM」：CBM292/293 用
ビデオ入力	V612Tx1x のみ対応	V712iS+EU-00（オプションユニット） のみ対応 *1
メモリカード機能	• カードレコーダ「CREC」	• カードレコーダ「CREC」
	• 内蔵メモリカードインターフェース（V612x2xx のみ）	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード *2
	• SRAM カセット	• SRAM カセット *3
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	•「メモリカード設定」の内容が一致している場合： そのまま使用可能 •「メモリカード設定」の内容が不一致の場合： フォーマット後使用可能
SRAM カセット	「V6EM/RS」容量：512k バイト	•「内蔵 SRAM」容量：64k バイト •「V7EM-S」容量：512k バイト 「V-SFT」または「M-CARD SFT」で V6 本体からバックアップデータを読み込み、V7 に転送する必要あり *3
増設メモリカセット	「V6EM/4」容量：4M バイト	「V7EM-F」容量：8M バイト 「V7EM-L」容量：4M バイト • メモリ増設 1 画面データサイズが 5M 以上の場合上記カセット装着 • メモリ増設 2 未対応　CF カードで代用 *4
保護シート	「V612-GS」	「V712-GS」

*1 ビデオ入力機能に関する変換時の注意事項について詳しくは P15「ビデオ入力機能の変換に関する注意」を参照してください。

*2 V6 で内蔵メモリカードインターフェースを使用していた場合の注意
V7 に変換する際には、CF カードを使用する場合と CREC を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 に変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。必要な設定について、詳しくは P19「内蔵メモリカードインターフェース」を参照してください。

*3 SRAM カセットのバックアップデータを V7 に転送する方法
詳しくは P24「SRAM カセット」を参照してください。

*4 CF カードで代用する場合（自動アップロード）
V6 において、画面データの入った増設メモリカセットを本体に差しただけでその画面が表示される「メモリ増設 2」機能は、V7 の増設メモリカセット（V7EM-F）にはありません。画面データの自動アップロードは、CF カードで代用可能です。置き換えする際は CF カードをご利用ください。「メモリ増設 2」では画面データを本体に書き込まずにカセットから参照して表示します。また本体プログラムはカセットに格納できないため、本体側のプログラムを使用します。CF カードの場合は、差した時点で本体の画面データ、I/F ドライバ、本体プログラム、フォント全てを書き換えます。CF カードの「画面データの自動アップロード」について、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編）』の「第 23 章　CF カード」を参照してください。

V610S → V710iS/V710S

項目	機種	
	V610S	V710iS/V710S
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能（W × H）	800 × 600 ドット	800 × 600 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	0 ～ 135°	15 ～ 135°
プリンタポート	CN2： セントロニクスハーフピッチ 36 ピン	PRINTER： セントロニクスハーフピッチ 20 ピン
プリンタケーブル	弊社製 V6 専用ケーブル •「V6-PT」 •「V6-PT-CBM」：CBM292/293 用	弊社製 V7 専用ケーブル →「V7-PT」 →「V7-PT-CBM」：CBM292/293 用
ビデオ入力	V610Sx1x のみ対応	V710iS+EU-00（オプションユニット） のみ対応　*1
メモリカード機能	• カードレコーダ「CREC」	• カードレコーダ「CREC」
	• 内蔵メモリカードインターフェース対応（V610S2xx のみ）	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード *2
	• SRAM カセット	• SRAM カセット　*3
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	•「メモリカード設定」の内容が一致している場合： そのまま使用可能 •「メモリカード設定」の内容が不一致の場合： フォーマット後使用可能
SRAM カセット	「V6EM/RS」容量：512k バイト	•「内蔵 SRAM」容量：64k バイト •「V7EM-S」容量：512k バイト 「V-SFT」または「M-CARD SFT」で V6 本体からバックアップデータを読み込み、V7 に転送する必要あり　*3
増設メモリカセット	「V6EM/4」容量：4M バイト	「V7EM-F」容量：8M バイト 「V7EM-L」容量：4M バイト • メモリ増設 1 画面データサイズが 5M 以上の場合上記カセット装着 • メモリ増設 2 未対応　CF カードで代用　*4
保護シート	「V610-GS」	「V710-GS」

*1　ビデオ入力機能に関する変換時の注意事項について詳しくは P15「ビデオ入力機能の変換に関する注意」を参照してください。

*2 V6 で内蔵メモリカードインターフェースを使用していた場合の注意
V7 に変換する際には、CF カードを使用する場合と CREC を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 に変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。必要な設定について、詳しくは P19「内蔵メモリカードインターフェース」を参照してください。

*3 SRAM カセットのバックアップデータを V7 に転送する方法
詳しくは P24「SRAM カセット」を参照してください。

*4 CF カードで代用する場合（自動アップロード）
V6 において、画面データの入った増設メモリカセットを本体に差しただけでその画面が表示される「メモリ増設 2」機能は、V7 の増設メモリカセット（V7EM-F）にはありません。画面データの自動アップロードは、CF カードで代用可能です。置き換えする際は CF カードをご利用ください。「メモリ増設 2」では画面データを本体に書き込まずにカセットから参照して表示します。また本体プログラムはカセットに格納できないため、本体側のプログラムを使用します。CF カードの場合は、差した時点で本体の画面データ、I/F ドライバ、本体プログラム、フォント全てを書き換えます。CF カードの「画面データの自動アップロード」について、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編）』の「第 23 章　CF カード」を参照してください。

V610T/V610C → V710iT/V710T/V710C

項目	機種	
	V610T/V610C	V710iT/V710T/V710C
表示デバイス	• TFT カラー：V610T • STN カラー：V610C	TFT カラー
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	289W × 216.2H	289W × 216.2H
表示分解能（W × H）	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	• アナログ	• アナログ
	• マトリックス	• マトリックス
取付角度	0 ～ 135°	15 ～ 135°
プリンタポート	CN2： セントロニクスハーフピッチ 36 ピン	PRINTER： セントロニクスハーフピッチ 20 ピン
プリンタケーブル	弊社製 V6 専用ケーブル •「V6-PT」 •「V6-PT-CBM」：CBM292/293 用	弊社製 V7 専用ケーブル →「V7-PT」 →「V7-PT-CBM」：CBM292/293 用
ビデオ入力	V610Tx1x のみ対応	V710iT+EU-00（オプションユニット） のみ対応　*1
アナログ RGB 入力	V610Tx2 のみ対応	V710iT+EU-01（オプションユニット） のみ対応
メモリカード機能	• カードレコーダ「CREC」	• カードレコーダ「CREC」
	• 内蔵メモリカードインターフェース対応（V610S2xx のみ）	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード *2
	• SRAM カセット	• SRAM カセット　*3
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	•「メモリカード設定」の内容が一致している場合： そのまま使用可能 •「メモリカード設定」の内容が不一致の場合： フォーマット後使用可能
SRAM カセット	「V6EM/RS」容量：512k バイト	「内蔵 SRAM」容量：64k バイト 「V7EM-S」容量：512k バイト 「V-SFT」または「M-CARD SFT」で V6 本体からバックアップデータを読み込み、V7 に転送する必要あり　*3
増設メモリカセット	「V6EM/4」容量：4M バイト	「V7EM-F」容量：8M バイト 「V7EM-L」容量：4M バイト • メモリ増設 1 画面データサイズが 5M 以上の場合上記カセット装着 • メモリ増設 2 未対応　CF カードで代用　*4
保護シート	「V610-GS」	「V710-GS」

*1 ビデオ入力機能に関する変換時の注意事項について詳しくは P15「ビデオ入力機能の変換に関する注意」を参照してください。

*2 V6 で内蔵メモリカードインターフェースを使用していた場合の注意
V7 に変換する際には、CF カードを使用する場合と CREC を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 に変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。必要な設定について、詳しくは P19「内蔵メモリカードインターフェース」を参照してください。

*3 SRAM カセットのバックアップデータを V7 に転送する方法
詳しくは P24「SRAM カセット」を参照してください。

*4 CF カードで代用する場合（自動アップロード）
V6 において、画面データの入った増設メモリカセットを本体に差しただけでその画面が表示される「メモリ増設 2」機能は、V7 の増設メモリカセット（V7EM-F）にはありません。画面データの自動アップロードは、CF カードで代用可能です。置き換えする際は CF カードをご利用ください。「メモリ増設 2」では画面データを本体に書き込まずにカセットから参照して表示します。また本体プログラムはカセットに格納できないため、本体側のプログラムを使用します。CF カードの場合は、差した時点で本体の画面データ、I/F ドライバ、本体プログラム、フォント全てを書き換えます。CF カードの「画面データの自動アップロード」について、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編）』の「第 23 章　CF カード」を参照してください。

V608C → V708C

項目	機種	
	V608C	V708C
表示デバイス	STN カラー	STN カラー
有効表示領域	7.7 インチ	7.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	220.5W × 165.5H	220.5W × 165.5H
表示分解能（W × H）	640 × 480 ドット	640 × 480 ドット
タッチスイッチ方式	アナログ	アナログ
取付角度	0 〜 135°	15 〜 135°
プリンタポート	CN2： セントロニクスハーフピッチ 36 ピン	PRINTER： セントロニクスハーフピッチ 20 ピン
プリンタケーブル	弊社製 V6 専用ケーブル •「V6-PT」 •「V6-PT-CBM」：CBM292/293 用	弊社製 V7 専用ケーブル →「V7-PT」 →「V7-PT-CBM」：CBM292/293 用
メモリカード機能	• カードレコーダ「CREC」	• カードレコーダ「CREC」
	• SRAM カセット	• SRAM カセット　*1
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	•「メモリカード設定」の内容が一致している場合： そのまま使用可能 •「メモリカード設定」の内容が不一致の場合： フォーマット後使用可能
SRAM カセット	「V6EM/RS」容量：512k バイト	「内蔵 SRAM」容量：64k バイト 「V7EM-S」容量：512k バイト 「V-SFT」または「M-CARD SFT」で V6 本体からバックアップデータを読み込み、V7 に転送する必要あり　*1
増設メモリカセット	「V6EM/4」容量：4M バイト	「V7EM-F」容量：8M バイト 「V7EM-L」容量：4M バイト • メモリ増設 1 画面データサイズが 5M 以上の場合上記カセット装着 • メモリ増設 2 未対応　CF カードで代用　*2
保護シート	「V608-GS」	「V708-GS」

*1　SRAM カセットのバックアップデータを V7 に転送する方法
詳しくは P24「SRAM カセット」を参照してください。

*2 CF カードで代用する場合（自動アップロード）
V6 において、画面データの入った増設メモリカセットを本体に差しただけでその画面が表示される「メモリ増設 2」機能は、V7 の増設メモリカセット（V7EM-F）にはありません。画面データの自動アップロードは、CF カードで代用可能です。置き換えする際は CF カードをご利用ください。「メモリ増設 2」では画面データを本体に書き込まずにカセットから参照して表示します。また本体プログラムはカセットに格納できないため、本体側のプログラムを使用します。CF カードの場合は、差した時点で本体の画面データ、I/F ドライバ、本体プログラム、フォント全てを書き換えます。CF カードの「画面データの自動アップロード」について、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編）』の「第 23 章　CF カード」を参照してください。

V606i /V606→ V706+DU-01

V606i/V606 を V706 に置き換える場合、オプションユニット「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用しない場合、「V606i/V606 → V706」P 13 をご覧ください。

項目	機種	
	V606i/V606	V706+DU-01
表示デバイス	• TFT カラー：V606iT • STN カラー：V606iC/V606C • STN モノクロ（ブルーモード）：V606iM • STN モノクロ（ホワイトモード）：V606M	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	174W × 131H	174W × 131H
表示分解能（W × H）	320× 240 ドット	320× 240 ドット
タッチスイッチ方式	• アナログ • マトリックス	• アナログ • マトリックス
取付角度	0 ～ 135°	15 ～ 135°
画面転送ポート	MJ1	• MJ1 • USB-B
画面転送ケーブル	弊社製画面転送ケーブル「V6-CP」	• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
PLC 通信ポート	CN1：Dsub25 ピン（凹）	CN1（DU-01）：Dsub25 ピン（凹） 同じ通信ケーブル使用可能
プリンタポート	CN2： セントロニクスハーフピッチ 36 ピン	なし シリアル接続または USB 接続 • シリアル接続 モジュラーコネクタ 8 ピン • USB 接続 USB-A ポート
プリンタケーブル	弊社製 V6 専用ケーブル •「V6-PT」 •「V6-PT-CBM」：CBM292/293 用	• シリアル接続 「V6-TMP」で作成 • USB 接続 市販 USB ケーブル または 市販 USB パラレル変換ケーブル
メモリカード機能	• カードレコーダ「CREC」	• カードレコーダ「CREC」
	• SRAM カセット	• SRAM カセット *1
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	•「メモリカード設定」の内容が一致している場合： そのまま使用可能 •「メモリカード設定」の内容が不一致の場合： フォーマット後使用可能

項目	機種	
	V606i/V606	V706+DU-01
SRAM カセット ＊ V606i のみ	「V6EM/RSi」容量：512k バイト	• 「内蔵 SRAM」容量：128k バイト • 「V706EM-S」容量：512k バイト 「V-SFT」または「M-CARD SFT」で V6 本体からバックアップデータを読み込み、V7 に転送する必要あり　*1
増設メモリカセット ＊ V606i のみ	「V6EM/4i」容量：4M バイト	「V706EM-F」容量：8M バイト • メモリ増設 1 画面データサイズが 1.4M 以上の場合上記カセット装着 • メモリ増設 2 未対応　CF カードで代用　*2
保護シート	「V606-GS」	「V606-GS」

*1 SRAM カセットのバックアップデータを V7 に転送する方法
詳しくは P24「SRAM カセット」を参照してください。

*2 CF カードで代用する場合（自動アップロード）
V6 において、画面データの入った増設メモリカセットを本体に差しただけでその画面が表示される「メモリ増設 2」機能は、V7 の増設メモリカセット（V706EM-F）にはありません。画面データの自動アップロードは、CF カードで代用可能です。置き換えする際は CF カードをご利用ください。「メモリ増設 2」では画面データを本体に書き込まずにカセットから参照して表示します。また本体プログラムはカセットに格納できないため、本体側のプログラムを使用します。CF カードの場合は、差した時点で本体の画面データ、I/F ドライバ、本体プログラム、フォント全てを書き換えます。CF カードの「画面データの自動アップロード」について、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編）』の「第 23 章　CF カード」を参照してください。

V606i/V606 → V706

PLC 接続ポート（MJ2）と通信不可能な PLC 機種があります。その場合、「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用する場合、「 V606i / V606→ V706+DU-01」P 11 をご覧ください。

項目	機種	
	V606i/V606	V706
表示デバイス	• TFT カラー：V606iT • STN カラー：V606iC/V606C • STN モノクロ（ブルーモード）：V606iM • STN モノクロ（ホワイトモード）：V606M	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	174W × 131H	174W × 131H
表示分解能（W × H）	320× 240 ドット	320× 240 ドット
タッチスイッチ方式	• アナログ • マトリックス	• アナログ • マトリックス
取付角度	0 ～ 135°	15 ～ 135°
画面転送ポート	MJ1	• MJ1 • USB-B
画面転送ケーブル	弊社製画面転送ケーブル「V6-CP」	• MJ1 の場合 弊社製画面転送ケーブル「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
PLC 通信ポート	CN1：Dsub25 ピン（凹）	MJ2：モジュラージャック 8 ピン　*1
通信用ケーブル	-	• V606 の通信ケーブルを活かす場合 MJ ←→ Dsub25 変換ケーブルを接続する ・RS-232C：「MJ2-PLC」、「MJ-D25」 ・RS-422（4 線）：「MJ2-PLC」 ・RS-485（2 線）：「MJ-D25」 • ケーブルを作り直す 『PLC 接続マニュアル』参照
プリンタポート	CN2： セントロニクスハーフピッチ 36 ピン	なし シリアル接続または USB 接続 • シリアル接続 モジュラーコネクタ • USB 接続 USB-A ポート
プリンタケーブル	弊社製 V6 専用ケーブル •「V6-PT」 •「V6-PT-CBM」：CBM292/293 用	• シリアル接続 「V6-TMP」で作成 • USB 接続 市販 USB ケーブル または 市販 USB パラレル変換ケーブル
メモリカード機能	• カードレコーダ「CREC」	• カードレコーダ「CREC」
	• SRAM カセット	• SRAM カセット　*2

項目	機種	
	V606i/V606	V706
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	• 「メモリカード設定」の内容が一致している場合： そのまま使用可能 • 「メモリカード設定」の内容が不一致の場合： フォーマット後使用可能
SRAM カセット ＊ V606i のみ	「V6EM/RSi」容量：512k バイト	• 「内蔵 SRAM」：容量：128k バイト 「V-SFT」または「M-CARD SFT」で V6 本体からバックアップデータを読み込み、V7 に転送する必要あり *2
増設メモリカセット ＊ V606i のみ	「V6EM/4i」容量：4M バイト	なし • メモリ増設 1 画面データサイズが 1.4M 以上の場合置き換え不可。 *3 • メモリ増設 2 未対応 CF カードで代用 *4
保護シート	「V606-GS」	「V606-GS」

*1 三菱電機製 A シリーズ CPU ポートとの接続する場合、V706 の MJ1/2 を使用します。弊社製ケーブル「V706-ACPU」をご使用ください。

*2 SRAM カセットのバックアップデータを V7 に転送する方法
詳しくは P24「SRAM カセット」を参照してください。

*3 オプションユニット「DU-01」を使用して、増設メモリカセット「V706EM-F」を装着してください。

*4 CF カードで代用する場合（自動アップロード）
V6 において、画面データの入った増設メモリカセットを本体に差しただけでその画面が表示される「メモリ増設 2」機能は、V7 の増設メモリカセット（V706EM-F）にはありません。画面データの自動アップロードは、CF カードで代用可能です。置き換えする際は CF カードをご利用ください。「メモリ増設 2」では画面データを本体に書き込まずにカセットから参照して表示します。また本体プログラムはカセットに格納できないため、本体側のプログラムを使用します。CF カードの場合は、差した時点で本体の画面データ、I/F ドライバ、本体プログラム、フォント全てを書き換えます。CF カードの「画面データの自動アップロード」について、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編）』の「第 23 章 CF カード」を参照してください。

ビデオ入力機能の変換に関する注意

色について

V6 と V7 では、ハードウェアの構造に違いがあるため、ビデオ表示した際の表示色が多少異なります。

	V7i	V6
色の数	**約** 32,768 **色**	**約** 260,000 **色**

なお、ビデオ画像の調整マクロの値と実際の色についても、多少異なります。参考までにデフォルトの値を下表に載せます。またディザ処理については、V6 シリーズでは設定可能ですが、V7 では必ず「あり」になります。

項目		デフォルト	
		V6	V7
輝度	0 (**暗**) - 255 (**明**)	171	128
コントラスト	0 (**弱**) - 255 (**強**)	24	128
色の濃さ	0 (**淡**) - 255 (**濃**)	44	128
ディザ処理 (**ビデオ画質の向上・補正**)	0 (**なし**), 1 (**あり**)	1	1 (**固定**)

ビデオ画像の調整を、マクロ（コマンド名：Video）で行っている場合、同じ値であっても、表示色が異なります。.

V6 シリーズから V7 シリーズに置き換えてビデオ表示する場合は、必ず V7 シリーズ上で実際にビデオ表示させて画質の状態を確認・調整後、ご使用ください。

描画について

V6 と V7 では、ビデオ表示の際のライン数が異なります。
V6 では偶数フィールドによる描画だったため、表示ライン数は実際の半分しか描画されていませんでした。
V7 ではフルフィールドで描画できるため、今まではっきり写せなかった文字や線などを、より鮮明に表示することができます。

SVGA タイプ（800 × 600 ドット）でのビデオ表示スピード

SVGA タイプ（800 × 600 ドット）の場合、V6 と V7 では表示スピードに多少差が出ます。

サイズ	表示コマ数（ベース画面 1CH 表示）	
	V7i	V6
640 × 480	約 7 コマ /1 秒	約 30 コマ /1 秒
640 × 240	約 9 コマ /1 秒	約 30 コマ /1 秒
320 × 240	約 10 コマ /1 秒	約 30 コマ /1 秒
160 × 120	約 12 コマ /1 秒 （フルフィールド）	約 30 コマ /1 秒 （偶数フィールドのみ）

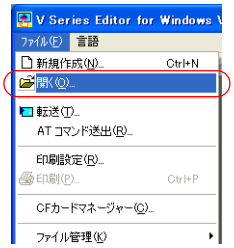
あらかじめご了承の上、ご使用ください。

画面データファイルの変換方法

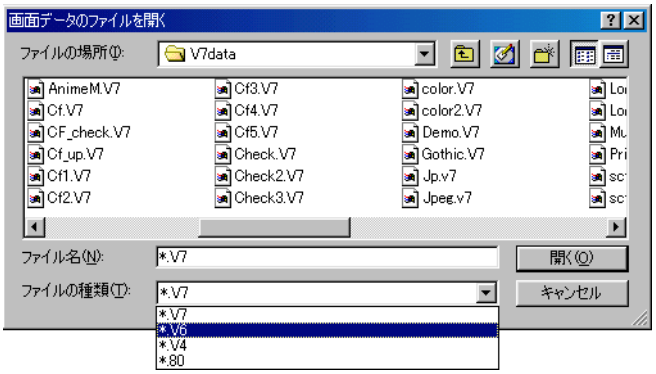
以下の手順でファイルを変換します。

1. V-SFT を起動し、［開く］アイコン、または［ファイル］の［開く］をクリックします。

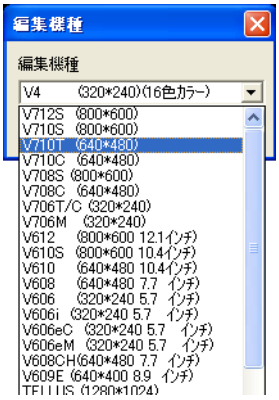
または



2. ［画面データのファイルを開く］ダイアログが表示されます。［ファイルの種類］が［*.V7］になっているので、［*.V6］に変更します。



3. 変換する V6 シリーズの画面データファイルを指定し、［開く］をクリックします。V6 シリーズの画面データファイルが開きます。
4. ［システム設定］の［編集機種選択］をクリックします。［編集機種］ダイアログが表示されます。

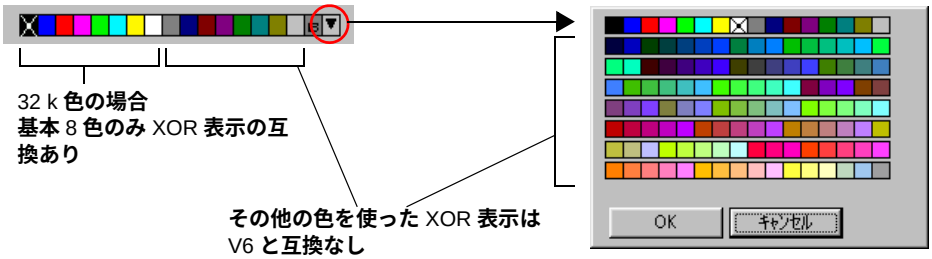


5. 変換後の V7 シリーズの機種を選択し、［OK］をクリックします。エディタ上に V7 シリーズ用に変換された画面データファイルが表示されます。
6. 名前を付けて保存します。

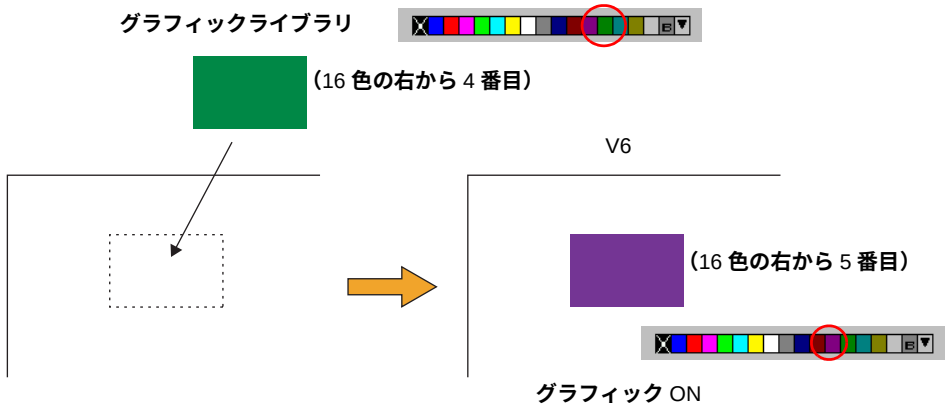
データの互換性

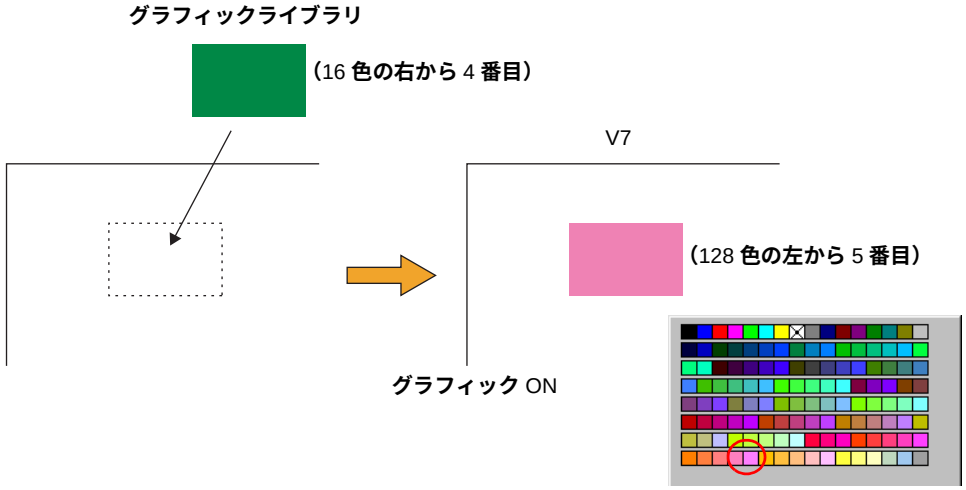
XOR 表示

V6 シリーズと V7 シリーズでは、カラーパレットの構造が異なるため、XOR 表示において、表示色に違いが出ます。V6 シリーズのスイッチ・ランプ、グラフィックモード、グラフィックリレーにおいて XOR 表示を設定している場合、V7 シリーズでは基本の 8 色だけ同じように XOR 表示されますが、その他の色は異なって XOR 表示されます。



例）グラフィックリレー
［背景色：白色］の画面に以下のようなグラフィックを呼び出す場合





基本 8 色以外の XOR 表示も V6 互換で使用するには

V-SFT において、［128 色モード］を選択します。これによって、カラー構造は V6 シリーズと同じになります。

*1 ［128 色モード］を選択した場合、32k 色表示、また 32ｋ 色表示のみサポート可能な機能は使用できません。

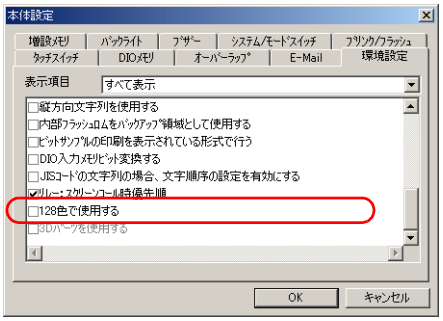
*2 V606iT から V706T に置き換えをした場合、［128 色モード］を設定しても以下 2 色の組み合わせのだけ、XOR 色が異なります。

- V706T 本体：薄いグレー
- V606iT 本体：濃いグレー

設定手順

128 色モードは以下の手順で選択します。

1. V6 から V7 に画面データを変換します。
2. ［システム設定］の［本体設定］をクリックします。［本体設定］ダイアログが表示されます。
3. ［環境設定］メニューをクリックします。
4. スクロールして［□ 128 色で使用する］にチェックを付けて、［OK］をクリックします。



*** 128 色モードは、本体プログラムが 32ｋ 色モードと異なります。チェックありのデータを転送すると、最初に本体プログラムを転送します。ご了承ください。**

内蔵メモリカードインターフェース

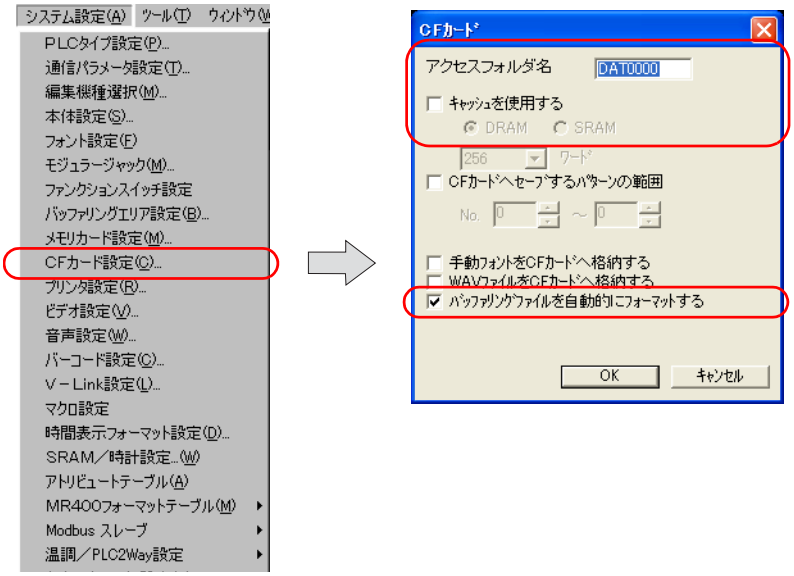
V7 シリーズに変換する際には、CF カードを使用する場合と CREC を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 シリーズに変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。

CF カードに置き換える場合

画面データの変換

以下の手順で行います。

1. V6 から V7 に変換した画面データファイルを開きます。
2. ［システム設定］の［CF カード設定］をクリックします。［CF カード］ダイアログが表示されます。

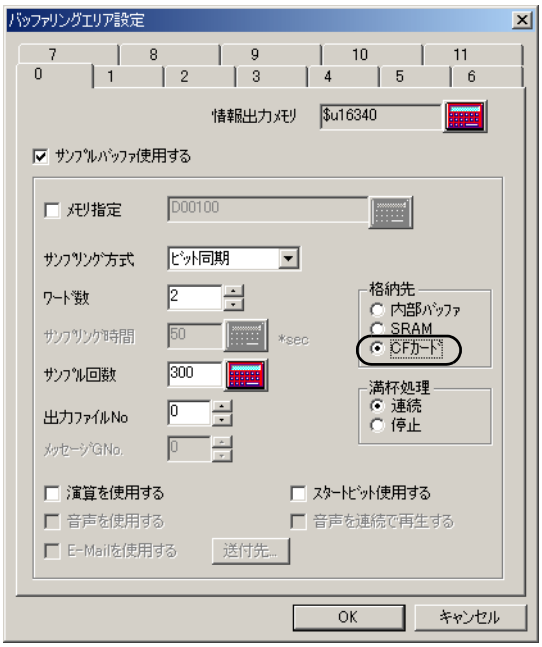


3. ［アクセスフォルダ名］において、任意の名前（半角大文字英数字 8 文字）を設定します。
4. データロギング機能を使用している場合［CF カード］ダイアログにおいて、［□キャッシュを使用する］および［□バッファリングファイルを自動的にフォーマットする］の設定を行います。
   - ［□キャッシュを使用する］
     - チェックなし
       毎回 CF カードにロギングデータを書き込みます。電源が急にダウンしてもデータは保持しますが、頻繁に（例えば数秒間隔で）サンプリングを行うと、CF カードの寿命が短くなります。
     - チェックあり :DRAM
       V7 本体に一時保管用の DRAM キャッシュメモリを確保し、サンプリングデータを格納します。キャッシュメモリ満杯時など、決まったタイミングで CF カードに書き込み動作を行うため、CF カードの寿命は長くなります。ただし DRAM なので、突然電源が落ちた場合にはキャッシュメモリを保持できない可能性もあります。

- **チェックあり** :SRAM
  V7 本体に一時保管用の SRAM **キャッシュメモリを確保し、サンプリングデータを格納します。キャッシュメモリ満杯時など、決まったタイミングで ＣＦ カードに書き込み動作を行うため、**CF **カードの寿命は長くなります。また** SRAM **なので、突然電源が落ちた場合にもデータは保持されます。**

キャッシュについて、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編)』の「第 23 **章　**CF **カード」を参照してください。**

- **[☑バッファリングファイルを自動的にフォーマットする]**
  V6 **からの変換の場合は、必ずチェックありに設定します。**
- **[バッファリングエリア設定] において [格納先：**CF **カード] に変更します。**



5. **設定を終えたら、画面データを保存し、**V7 **シリーズ本体に転送します。**

メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合）

レシピ用などに使用していたデータは、一旦パソコンに取り込み、CF カード用に変換し、書き込む必要があります。使用するソフトは以下のとおりです。

A. **メモリカードのデータを取り込む**
メモリカードエディタ「M-CARD SFT**」を使用します**

B. A **のデータを** CF **カード用に変換し、**CF **カードに書き込む**
V-SFT **の「**CF **カードマネージャー」を使用します**

以下の手順で行います。

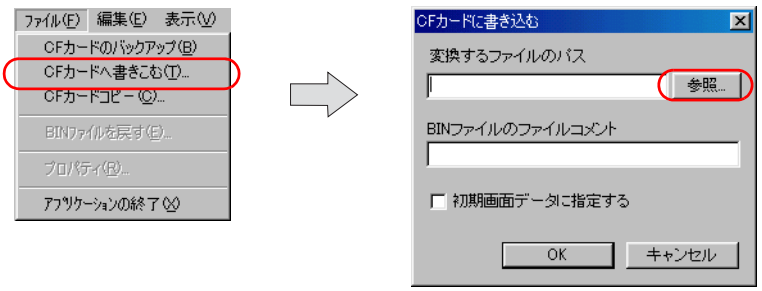
A. **メモリカードのデータを取り込む**

1. V6 **で使用していた** SRAM **メモリカード内のデータを、メモリカードエディタ「**M-CARD SFT**」を使って読み込み、保存します。保存したデータファイルは拡張子［**.mcd**］のファイルになります。**

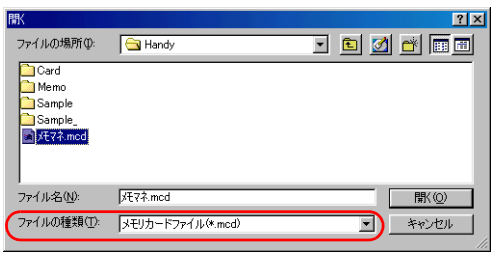
メモリカードエディタについて、詳しくは別途『M-CARD SFT **取扱説明書』を参照してください。**

B. **データを** CF **カード用に変換し、**CF **カードに書き込む**

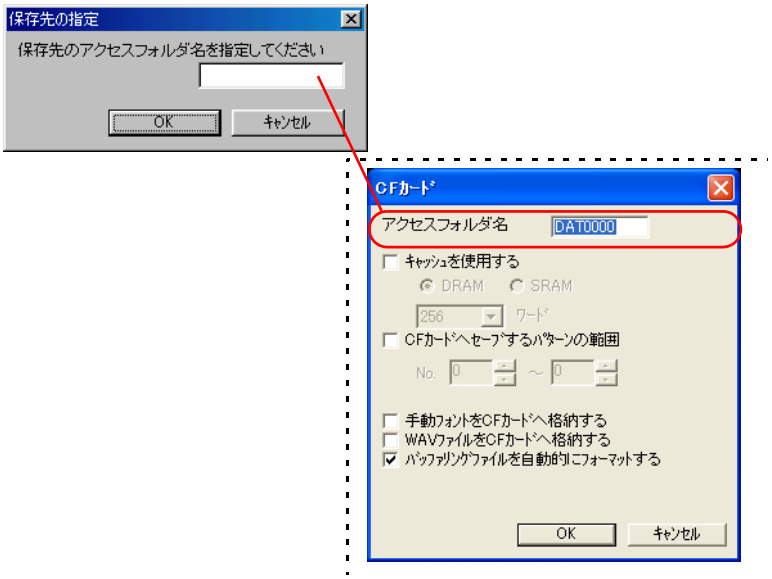
2. **パソコンで** CF **カードを読み書きできる環境（**CF **カードリーダライターなどを準備）にします。**
3. V-SFT **を起動し、［ファイル］の［**CF **カードマネージャー］をクリックします。**CF **カードのドライブを指定し、［**OK**］をクリックすると、［**CF **カードマネージャー］が起動します。**
4. **［ファイル］の［**CF **カードへ書きこむ］をクリックします。以下のダイアログが表示されます。**



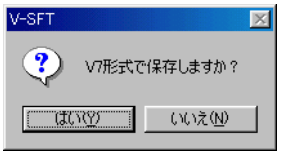
5. **［変換するファイルのパス］の［参照］ボタンをクリックし、以下のように、［ファイルの種類］で［メモリカードファイル（***.mcd**）］を選択します。**



6. 1. で保存したファイルを選択し、［開く］をクリックして、元の［CF カードに書きこむ］ダイアログに戻ります。
7. ［OK］をクリックします。［保存先の指定］ダイアログが表示されます。



8. 先の「画面データの変換」P 19 の 3. において設定した［アクセスフォルダ名］と同じ名前を指定し、［OK］をクリックします。
9. 以下のような確認メッセージが表示されます。［はい］をクリックします。



10. CF カードに 8. の名前のフォルダが作成されます。そのアクセスフォルダの下の［Card］フォルダ内に、以下のファイルが作成されていることを確認します。Mcmxxxx.bin（xxxx：0 ～ 15）Mcmhead.bin
11. この CF カードを V7 本体の CF カードソケットに挿入します。V6 と同様にデータの読み書きが可能となります。

CREC に置き換える場合

V6 で使用していた SRAM メモリカードをそのまま使用する場合は、カードレコーダ「CREC」を接続し、メモリカードを使用してください。ただし、画面データファイルの変換時に必要な設定があります。

画面データの変換

以下の手順で行います。

1. V6 から V7 に変換した画面データファイルを開きます。
2. ［システム設定］の［モジュラージャック］をクリックします。［モジュラージャック］ダイアログが表示されます。
3. ［モジュラージャック 2］または［モジュラージャック 1］において、［カードレコーダ］を選択します。
4. 設定を終えたら、画面データを保存し、V7 シリーズ本体に転送します。

後は V7 本体において、［カードレコーダ］に設定したモジュラージャックに CREC を接続し、SRAM メモリカードを挿入してください。V6 と同様にデータの読み書きが可能となります。

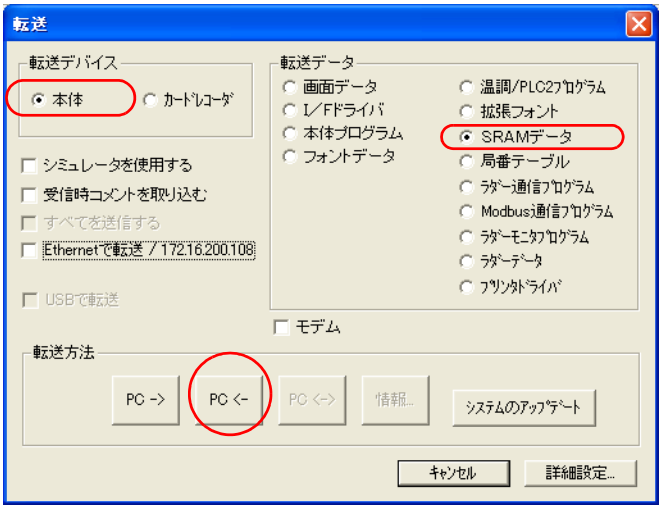
SRAM カセット

V6 の SRAM カセットに格納されたデータを、V7 の内蔵 SRAM または SRAM カセットでそのまま利用することが可能です。

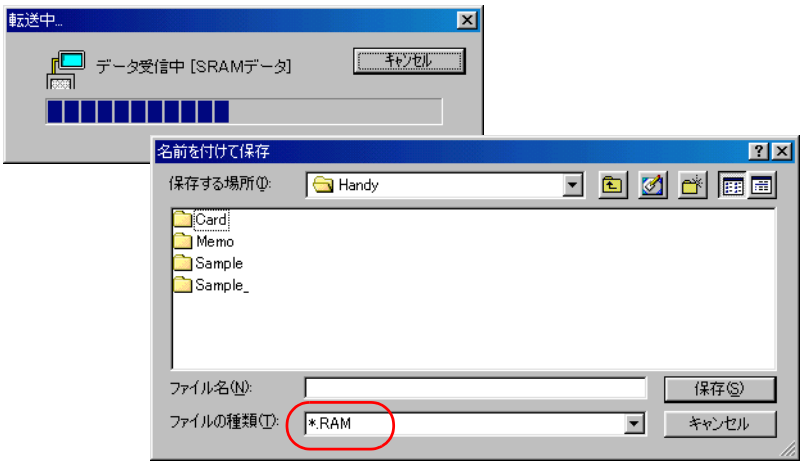
SRAM データの転送

以下の手順で行います。

1. SRAM カセットを使用中の V6 とパソコンを接続し、V-SFT を起動します。
2. ［転送］アイコン、または［ファイル］の［転送］をクリックします。［転送］ダイアログが表示されます。
3. ［転送デバイス：本体］、［転送データ：SRAM データ］を選択し、［PC<-］をクリックします。

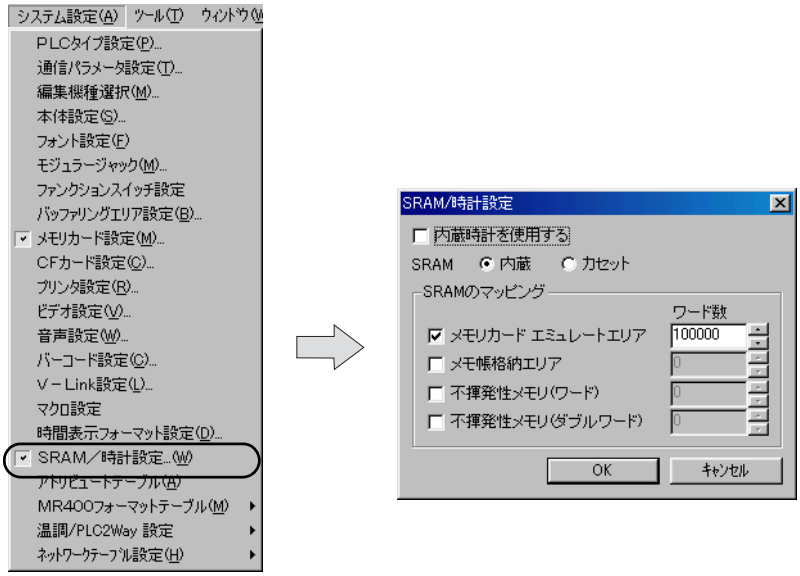


4. ［データ受信中］のダイアログが表示された後、以下のような保存場所指定ダイアログが表示されます。



名前を付けて任意の場所にデータを保存します。拡張子は［*.RAM］になります。

5. V6 の画面データを V7 に変換します。（P 19 参照）
6. V6 の SRAM カセットの使用容量が 64k バイト以内ならばそのままで、64k バイトを超える場合は SRAM カセットを V7 にセットしておきます。（SRAM の使用容量を確認するには、［システム設定］→［SRAM/ 時計設定］を確認してください。）



7. 画面データを V7 に転送します。
8. V7 本体で SRAM のフォーマットを行います。V7 の［ローカルメイン］画面から［SRAM/ 時計］スイッチを押して、［SRAM/ 時計］画面に入ります。
9. ［フォーマット］スイッチを押して、［実行］スイッチを押します。「＊＊フォーマット完了＊＊」のメッセージが表示されたら、［ローカルメイン］画面に戻ります。

［ローカルメイン］画面からの操作方法について、詳しくは『V7 ハード仕様書』を参照してください。

10. バックアップデータを V7 の SRAM に転送します。V-SFT の［転送］ダイアログから［転送デバイス：本体］、［転送データ：SRAM データ］を選択し、［PC->］をクリックします。
11. ファイル指定のダイアログが表示されるので、4. で保存したファイルを選び、［開く］をクリックします。データが転送されます。

これで V6 と同様にデータが使用可能となります。

V4 シリーズ→ V7 シリーズ

推奨機種

V4 シリーズを V7 シリーズに置き換える場合、対応機種は以下のようになります。

	V4 シリーズ機種	V7 シリーズ機種	オプション
10 インチ	V4x0x0x-x V4x1x0x-x	• 画面の 2 点押し機能使用 V710iTM V710TM V710CM • 画面の 2 点押し機能未使用 V710iT V710T V710C	-
	V4T2x0x-x	• 画面の 2 点押し機能使用 V710iTM • 画面の 2 点押し機能未使用 V710iT	EU-02
5.7 インチ	V4SC0x0x-x	• 画面の 2 点押し機能使用 V706TMD V706CMD • 画面の 2 点押し機能未使用 V706TD V706CD	DU-01
	V4SW1x0x-x V4SB1x0x-x	• 画面の 2 点押し機能使用 V706MMD • 画面の 2 点押し機能未使用 V706MD	DU-01

ハードの互換性

V4 → V710iT/V710T/V710C

項目	機種	
	V4	V710iT/V710T/V710C
表示デバイス	• TFT カラー：V4T • STN カラー：V4C • STN ホワイトモード：V4W • STN ブルーモード：V4B • STN 半透過イエロー：V4H	TFT カラー
有効表示領域	10.4 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	317 W × 229 H	289 W × 216.2 H 弊社オプションの取付パネルアダプタ「PAD-V610」使用
表示分解能（W × H）	640 W × 480 H ドット	640 W × 480 H ドット
タッチスイッチ方式	マトリックス	• アナログ
		• マトリックス
タッチスイッチ分解能	• マトリックス 40(横) × 24(縦) 個	• アナログ 1024(横) × 1024(縦) • マトリックス 40(横) × 24(縦) 個
外部入出力端子（RUN、STOP、BZ）	あり	なし
RS-422 端子	あり	なし 弊社オプションのターミナルコンバータ「TC485」使用
画面転送ポート	CN1：Dsub 25 ピン（凹）	MJ1：モジュラーコネクタ 8 ピン
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CP」	•「V6-CP」+「ADP25-9」
	• DOS/V：「GD-CPV」	•「V6-CP」
PLC 通信ポート	CN1：Dsub 25 ピン（凹）	CN1：Dsub25 ピン（凹）
プリンタポート	CN2： セントロニクス 14 ピン	PRINTER： セントロニクス　ハーフピッチ 20 ピン
プリンタケーブル	PC-9801 用標準プリンタケーブル	弊社製 V7 専用プリンタケーブル「V7-PT」
バーコードリーダー接続	CN7：Dsub 9 ピン （V4xx2/V4xx4/V4xx5 のみ）	MJ1/2：モジュラーコネクタ 8 ピン 弊社製バーコードリーダーケーブル「V6-BCD」で MJ ←→ Dsub9 ピン変換ケーブル作成
メモリカード機能	CN4：Dsub15 ピン （V4xx5/V4xx6 のみ） カードレコーダ「GD-MREC02」	• カードレコーダ「CREC」 • SRAM（内蔵 / カセット） • CF カード
	CN5： 内蔵メモリカードインターフェース （V4xx2/V4xx4 のみ）	*1
メモリカードへの画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード

項目	機種	
	V4	V710iT/V710T/V710C
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	•「メモリカード設定」の内容が一致している場合： そのまま使用可能 •「メモリカード設定」の内容が一致している場合：フォーマット後使用可能 *1
アナログ RGB 出力	CN3：High density Dsub15 ピン（V4T2 のみ）	V710iS+EU-02（オプションユニット） DOS/V のみ対応
外部 I/O	CN6 （V4Tx3 のみ）	標準品 +V-I/O（オプション）で対応
保護シート	「V4-GS」	「V710-GS」

*1 V4 でメモリカード機能を使用していた場合の注意
V7 に変換する際には、CF カードを使用する場合と「CREC」を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 に変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。必要な設定について、詳しくは P36「内蔵メモリカードインターフェース /GD-MREC02」を参照してください。

V4S → V706+DU-01

V4S を V706 に置き換える場合、オプションユニット「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用しない場合、「 V4S → V706」P 32 をご覧ください。

項目	機種	
	V4S	V706+DU-01
表示デバイス	• STN カラー：V4SC • STN モノクロ（ホワイトモード）：V4SW • STN モノクロ（ブルーモード）：V4SB	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	199 W × 147 H	174W × 131H 弊社オプション品の取付パネルアダプタ「PAD-V606」使用
表示分解能（W × H）	320 × 240 ドット	320 × 240 ドット
タッチスイッチ方式	• マトリックス	• マトリックス • アナログ
タッチスイッチ分解能	• マトリックス 10(横) × 6(縦) 個	• アナログ 1024(横) × 1024(縦) • マトリックス 20(横) × 12(縦) 個
画面転送ポート	CN2：Dsub 25 ピン（凹）	• MJ1 • USB-B
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CP」 • DOS/V：「GD-CPV」	• MJ1 の場合 NEC PC98：「V6-CP」+「ADP25-9」 DOS/V：「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
PLC 接続用ポート	CN2：Dsub 25 ピン（凹）	CN1（DU-01）：Dsub25 ピン（凹）
バーコードリーダー接続	CN1：Dsub 9 ピン （V4Sxx2 のみ）	MJ1/2：モジュラーコネクタ 8 ピン 弊社製バーコードリーダーケーブル「V6-BCD」で MJ ←→ Dsub9 ピン変換ケーブル作成
プリンタポート	CN4：セントロニクス 14 ピン	なし シリアル接続または USB 接続 • シリアル接続 モジュラーコネクタ • USB 接続 USB-A ポート
プリンタケーブル	PC-9801 用標準プリンタケーブル	• シリアル接続 「V6-TMP」で作成 • USB 接続 市販 USB ケーブル または 市販 USB パラレル変換ケーブル
メモリカードへの画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード

項目	機種	
	V4S	V706+DU-01
REC-MCARD	• **画面転送用** FLASH/SRAM	V-SFT **で読み込み、**V7 **用データに変換してから使用**
保護シート	「V4S-GS」	「V606-GS」

V4S → V706

PLC 接続ポート（MJ2）と通信不可能な PLC 機種があります。その場合、「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用する場合、「V4S → V706+DU-01」P 30 をご覧ください。

項目	機種	
	V4S	V706
表示デバイス	• STN カラー：V4SC • STN モノクロ（ホワイトモード）：V4SW • STN モノクロ（ブルーモード）：V4SB	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	199 W × 147 H	174W × 131H 弊社オプション品の取付パネルアダプタ「PAD-V606」使用
表示分解能（W × H）	320 × 240 ドット	320 × 240 ドット
タッチスイッチ方式	• マトリックス	• マトリックス • アナログ
タッチスイッチ分解能	• マトリックス 10(横) × 6(縦) 個	• アナログ 1024(横) × 1024(縦) • マトリックス 20(横) × 12(縦) 個
画面転送ポート	CN2：Dsub 25 ピン（凹）	• MJ1 • USB-B
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CP」 • DOS/V：「GD-CPV」	• MJ1 の場合 NEC PC98：「V6-CP」+「ADP25-9」 DOS/V：「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
PLC 通信ポート	CN2：Dsub 25 ピン（凹）	MJ2：モジュラーコネクタ 8 ピン　*1
PLC 通信ケーブル	-	• V4S の通信ケーブルを活かす場合 MJ ←→ Dsub25 変換ケーブルを接続する ・RS-232C：「MJ2-PLC」、「MJ-D25」 ・RS-422（4 線）：「MJ2-PLC」 ・RS-485（2 線）：「MJ-D25」 • ケーブルを作り直す 『PLC 接続マニュアル』参照
バーコードリーダー接続	CN1：Dsub 9 ピン （V4Sxx2 のみ）	MJ1/2：モジュラーコネクタ 8 ピン 弊社製バーコードリーダーケーブル「V6-BCD」で MJ ←→ Dsub9 ピン変換ケーブル作成
プリンタポート	CN4：セントロニクス 14 ピン	なし シリアル接続または USB 接続 • シリアル接続 モジュラーコネクタ • USB 接続 USB-A ポート

項目	機種	
	V4S	V706
プリンタケーブル	PC-9801 用標準プリンタケーブル	• シリアル接続 「V6-TMP」で作成 • USB 接続 市販 USB ケーブル または 市販 USB パラレル変換ケーブル
メモリカードへの 画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH/SRAM	V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
保護シート	「V4S-GS」	「V606-GS」

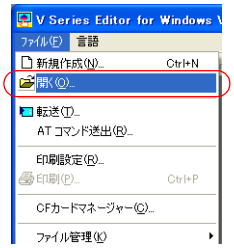
*1 MJ2 と通信不可能な PLC 機種があります。詳しくは［V706 ハード仕様書　第 2 章］をご覧ください。

画面データファイルの変換方法

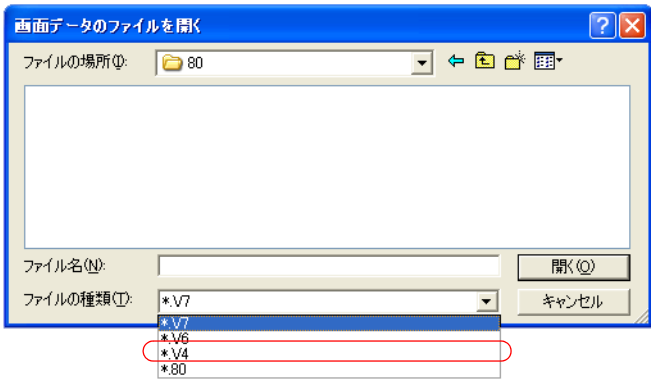
以下の手順でファイルを変換します。

1. V-SFT を起動し、［開く］アイコン、または［ファイル］の［開く］をクリックします。

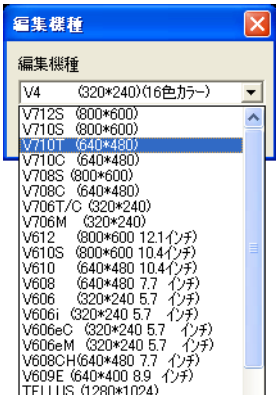
または



2. ［画面データのファイルを開く］ダイアログが表示されます。［ファイルの種類］が［*.V7］になっているので、［*.V4］に変更します。

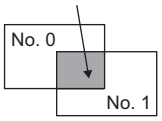
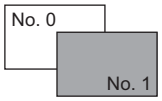
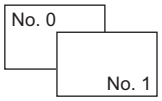
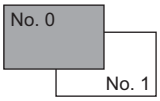


3. 変換する V4 シリーズの画面データファイルを指定し、［開く］をクリックします。V4 シリーズの画面データファイルが開きます。
4. ［システム設定］の［編集機種選択］をクリックします。［編集機種］ダイアログが表示されます。



5. 変換後の V7 シリーズの機種を選択し、［OK］をクリックします。エディタ上に V7 シリーズ用に変換された画面データファイルが表示されます。
6. 名前を付けて保存します。

データの互換性

機種 項目	V4	V7
スイッチ ［動作：ICON2］	あり	なし 自動的に［動作：ICON1］に変換します
スイッチ	スイッチが 2 個重なった場合、重なった場所を押すと後から配置した方が反応する ここを押したとき  V4 本体で No. 1 が反応する  	エディタ上は、No.（または DIV No.）の小さい方が下、大きい方が上になります。  ［本体設定］の［環境設定］のメニュー ［□スイッチが重なった時、上のスイッチを有効にする］ • チェックあり：V4 と同じ動作 • チェックなし：先に配置した方が反応 No. 0 が反応する 
数値表示	オーバーフロー時には上の桁を表示する 例）D100 ＝ 1234 の場合 4 桁表示＝「1234」 2 桁表示＝「12」	オーバーフロー時には以下のように表示する 例）D100 ＝ 1234 の場合 4 桁表示＝「1234」 2 桁表示＝「--」
XOR 表示	-	［本体設定］の［環境設定］のメニュー ［□ 128 色で使用する］ • チェックあり：V4 と同じ表示 • チェックなし：基本 8 色のみ同じ表示

内蔵メモリカードインターフェース /GD-MREC02

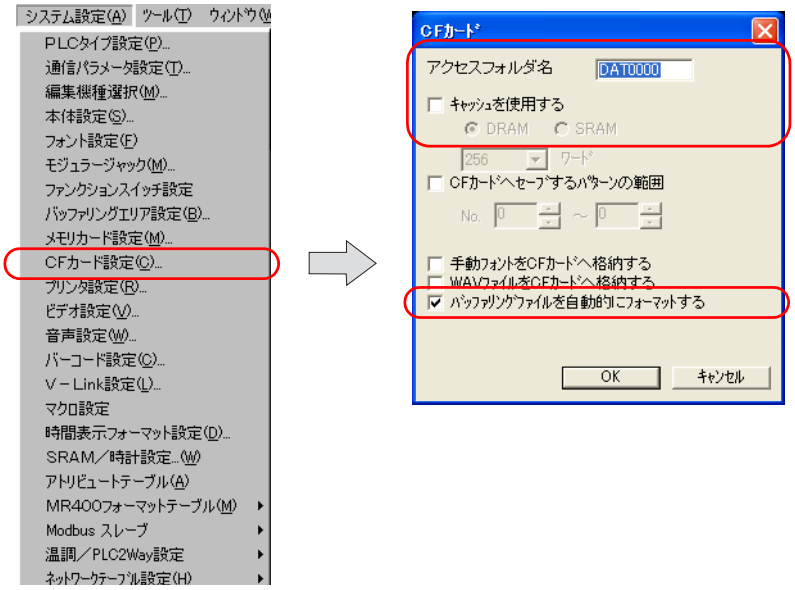
V7 シリーズに変換する際には、CF カードを使用する場合と CREC を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 シリーズに変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。

CF カードに置き換える場合

画面データの変換

以下の手順で行います。

1. V4 から V7 に変換した画面データファイルを開きます。
2. ［システム設定］の［CF カード設定］をクリックします。［CF カード］ダイアログが表示されます。

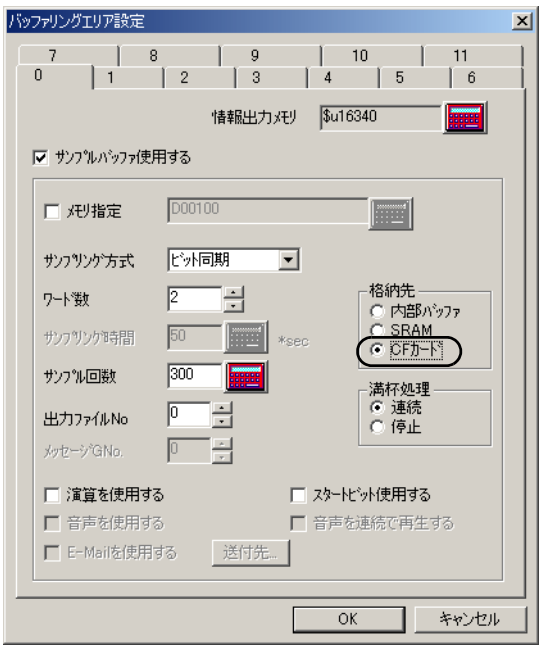


3. ［アクセスフォルダ名］において、任意の名前（半角大文字英数字 8 文字）を設定します。
4. データロギング機能を使用している場合［CF カード］ダイアログにおいて、［□キャッシュを使用する］および［□バッファリングファイルを自動的にフォーマットする］の設定を行います。
   - ［□キャッシュを使用する］
     - チェックなし
       毎回 CF カードにロギングデータを書き込みます。電源が急にダウンしてもデータは保持しますが、頻繁に（例えば数秒間隔で）サンプリングを行うと、CF カードの寿命が短くなります。
     - チェックあり :DRAM
       V7 本体に一時保管用の DRAM キャッシュメモリを確保し、サンプリングデータを格納します。キャッシュメモリ満杯時など、決まったタイミングで CF カードに書き込み動作を行うため、CF カードの寿命は長くなります。ただし DRAM なので、突然電源が落ちた場合にはキャッシュメモリを保持できない可能性もあります。

- **チェックあり** :SRAM
  V7 本体に一時保管用の SRAM **キャッシュメモリを確保し、サンプリングデータを格納します。キャッシュメモリ満杯時など、決まったタイミングで ＣＦ カードに書き込み動作を行うため、**CF **カードの寿命は長くなります。また** SRAM **なので、突然電源が落ちた場合にもデータは保持されます。**

キャッシュについて、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編)』の「第 23 **章　**CF **カード」を参照してください。**

- **[☑バッファリングファイルを自動的にフォーマットする]**
  V4 **からの変換の場合は、必ずチェックありに設定します。**
- **[バッファリングエリア設定]において［格納先：**CF **カード］に変更します。**



5. **設定を終えたら、画面データを保存し、**V7 **シリーズ本体に転送します。**

メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合）

レシピ用などに使用していたデータは、一旦パソコンに取り込み、CF カード用に変換し、書き込む必要があります。使用するソフトは以下のとおりです。

A. **メモリカードのデータを取り込む**
メモリカードエディタ「M-CARD SFT**」を使用します**

B. A **のデータを** CF **カード用に変換し、**CF **カードに書き込む**
V-SFT **の「**CF **カードマネージャー」を使用します**

以下の手順で行います。

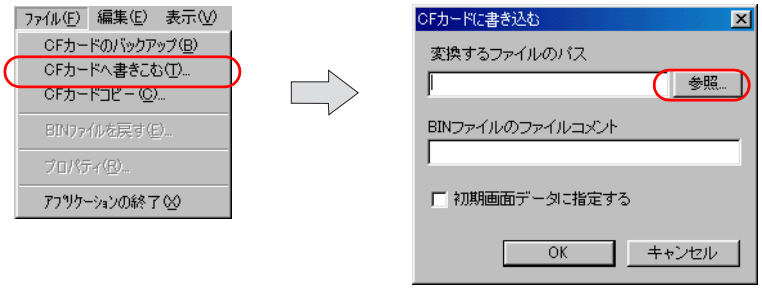
A. **メモリカードのデータを取り込む**

1. V4 **で使用していた** SRAM **メモリカード内のデータを、メモリカードエディタ「**M-CARD SFT**」を使って読み込み、保存します。保存したデータファイルは拡張子［**.mcd**］のファイルになります。**

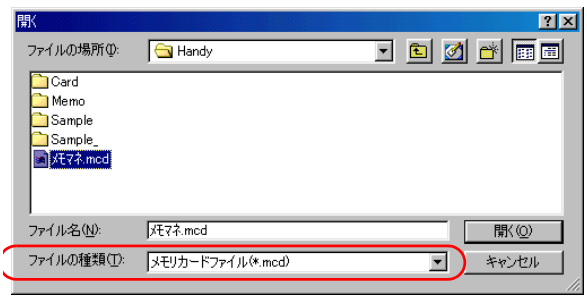
メモリカードエディタについて、詳しくは別途『M-CARD SFT **取扱説明書』を参照してください。**

B. **データを** CF **カード用に変換し、**CF **カードに書き込む**

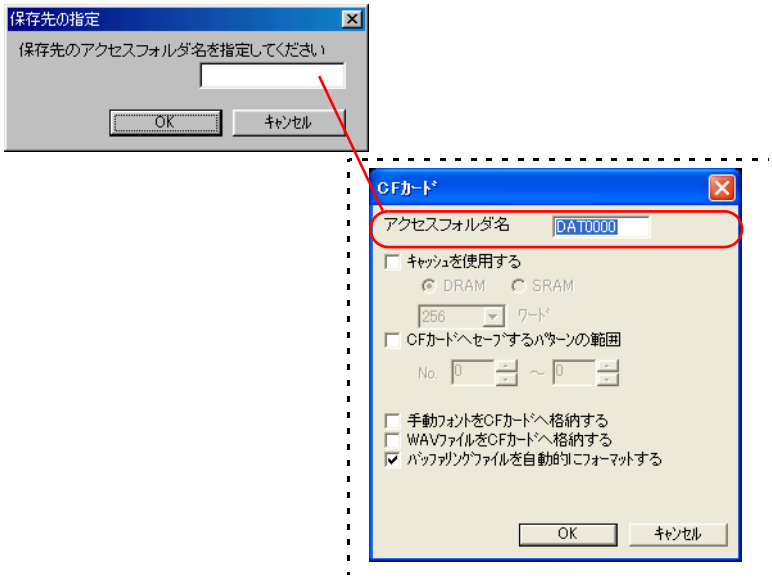
2. **パソコンで** CF **カードを読み書きできる環境（**CF **カードリーダライターなどを準備）にします。**
3. V-SFT **を起動し、［ファイル］の［**CF **カードマネージャー］をクリックします。**CF **カードのドライブを指定し、［**OK**］をクリックすると、［**CF **カードマネージャー］が起動します。**
4. **［ファイル］の［**CF **カードへ書きこむ］をクリックします。以下のダイアログが表示されます。**



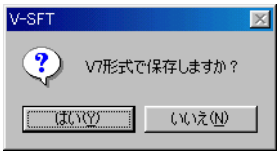
5. **［変換するファイルのパス］の［参照］ボタンをクリックし、以下のように、［ファイルの種類］で［メモリカードファイル（***.mcd**)］を選択します。**



6. 1. で保存したファイルを選択し、［開く］をクリックして、元の［CF カードに書きこむ］ダイアログに戻ります。
7. ［OK］をクリックします。［保存先の指定］ダイアログが表示されます。



8. 先の P36「画面データの変換」の 3. において設定した［アクセスフォルダ名］と同じ名前を指定し、［OK］をクリックします。
9. 以下のような確認メッセージが表示されます。［はい］をクリックします。



10. CF カードに 8. の名前のフォルダが作成されます。そのアクセスフォルダの下の［Card］フォルダ内に、以下のファイルが作成されていることを確認します。Mcmxxxx.bin（xxxx：0 ～ 15）Mcmhead.bin
11. この CF カードを V7 本体の CF カードソケットに挿入します。V4 と同様にデータの読み書きが可能となります。

CREC に置き換える場合

V4 で使用していた SRAM メモリカードをそのまま使用する場合は、カードレコーダ「CREC」を接続し、メモリカードを使用してください。ただし、画面データファイルの変換時に必要な設定があります。

画面データの変換

以下の手順で行います。

1. V4 から V7 に変換した画面データファイルを開きます。
2. ［システム設定］の［モジュラージャック］をクリックします。［モジュラージャック］ダイアログが表示されます。
3. ［モジュラージャック 2］または［モジュラージャック 1］において、［カードレコーダ］を選択します。
4. 設定を終えたら、画面データを保存し、V7 シリーズ本体に転送します。

後は V7 本体において、［カードレコーダ］に設定したモジュラージャック側に CREC を接続し、SRAM メモリカードを挿入してください。V4 と同様にデータの読み書きが可能となります。

GD-80 シリーズ→ V7 シリーズ

推奨機種

GD シリーズを V7 シリーズに置き換える場合、対応機種は以下のようになります。

GD-80 シリーズ機種	置き換え推奨機種	オプション
GD-80T0xxx-x	• 画面の 2 点押し機能使用 V710iTM V710TM V710CM • 画面の 2 点押し機能未使用 V710iT V710T V710C	-
GD-80TAxxx-x	• 画面の 2 点押し機能使用 V710iTM • 画面の 2 点押し機能未使用 V710iT	EU-02
GD-80Exxxx-x	V609E30M *1	-
GD-80Sxx-x	• 画面の 2 点押し機能使用 V706TMD V706CMD • 画面の 2 点押し機能未使用 V706TD V706CD	DU-01
GD-81S	• 画面の 2 点押し機能使用 V706MMD • 画面の 2 点押し機能未使用 V706MD	DU-01

*1 別冊『V609E 仕様書』をご覧ください。

ハードの互換性

GD-80T → V710iT/V710T/V710C

項目	GD-80T	V710iT/V710T/V710C
表示デバイス	TFT カラー	TFT カラー
有効表示領域	9.8 インチ	10.4 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	317 W × 229 H	289 W × 216.2 H 弊社オプションの取付パネルアダプタ「PAD-V610」使用
表示分解能（W × H）	640 W × 400 H ドット	640 W × 480 H ドット
タッチスイッチ方式	• マトリックス	• アナログ • マトリックス
タッチスイッチ分解能	• マトリックス 20(横) × 10(縦) 個	• アナログ 1024(横) × 1024(縦) • マトリックス 40(横) × 24(縦) 個
外部入出力端子（RUN、STOP、BZ）	TB2	なし
RS-422 端子	TB2 （GD-80xxx0 のみ）	なし 弊社オプションのターミナルコンバータ「TC485」使用
Dsub 15 ピンコネクタ（三菱 A/Q/FX CPU 直結用コネクタ）	CN6 （GD-80xxxM のみ）	なし 標準の Dsub 25 ピンコネクタで三菱 A/Q/FX CPU と直結可能
画面転送ポート	CN1：Dsub 25 ピン（凹）	MJ1：モジュラーコネクタ 8 ピン
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CP」	「V6-CP」+「ADP25-9」
	• DOS/V：「GD-CPV」	「V6-CP」
PLC 通信ポート	CN1：Dsub 25 ピン（凹）	CN1：Dsub 25 ピン（凹）
PLC 通信ケーブル	• Dsub25 ピンケーブル	同じケーブル使用可能
	• RS-422 端子用ケーブル	同じケーブル使用可能 ただし、弊社オプションのターミナルコンバータ「TC485」使用
	• Dsub15 ピンケーブル 三菱 A/Q/FX CPU 直結用 「MB-CPU」	「MB-CPU」を活かす場合 弊社製 15 ピン←→ 25 ピン変換ケーブル「CAB-001」を「MB-CPU」に接続 ケーブルを変える場合 「MB-CPUQ」を使用
プリンタポート	CN2: セントロニクス 14 ピン	PRINTER： セントロニクス　ハーフピッチ 20 ピン
プリンタケーブル	PC-9801 用標準プリンタケーブル	弊社製 V7 専用プリンタケーブル「V7-PT」
バーコードリーダー接続	CN4：Dsub 9 ピン （GD-80xx2x のみ）	MJ1/2：モジュラーコネクタ 8 ピン 弊社製バーコードリーダーケーブル「V6-BCD」で MJ ←→ Dsub9 ピン変換ケーブル作成

項目	GD-80T	V710iT/V710T/V710C
メモリカード機能 データロギング メモリマネージャ	CN5：Dsub15 ピン （GD-80xx2x のみ） カードレコーダ「GD-MREC02」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード *1
メモリカードへの画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	GD-SFT80/GD-SFT80W で保存し、V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
	• データロギング / メモリマネージャ機能 SRAM	「M-CARD SFT（別売）」でメモリカードの機種を変更後使用
アナログ RGB 出力	CN3：Dsub15 ピン （GD-80TAxxx のみ）	V710iT+EU-02（オプションユニット）のみ対応
保護シート	「GD-GS80T」	「V710-GS」
防水保護カバー	「GD-WP80T」	不要 標準で IP65 準拠

*1 GD-80 でメモリカード機能を使用していた場合の注意
V7 に変換する際には、CF カードを使用する場合と「CREC」を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 に変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。必要な設定について、詳しくは P64「GD-MREC02 からの変換」を参照してください。

GD-80S → V706+DU-01

GD-80S を V706 に置き換える場合、パネルカット寸法を大きくする必要があります。
またオプションユニット「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用しない場合、「GD-80S → V706」P 46 をご覧ください。

項目	GD-80S	V706+DU-01
表示デバイス	• 高輝度 EL：GD-80SE • STN モノクロ（ホワイトモード）：GD-80SL	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	4.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	158.5 W × 122.5 H	174W × 131H ＊ パネルカットを大きくする必要あり
表示分解能（W × H）	320 × 240 ドット	320 × 240 ドット
タッチスイッチ方式	• マトリックス	• マトリックス • アナログ
タッチスイッチ分解能	10(横) × 6(縦) 個	• アナログ 1024(横) × 1024(縦) • マトリックス 20(横) × 12(縦) 個
画面転送ポート	CN1：Dsub 9 ピン（凹）	• MJ1：モジュラーコネクタ 8 ピン • USB-B
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CPS」 • DOS/V：「GD-CPSV」	• MJ1 の場合 NEC PC98：「V6-CP」+「ADP25-9」 DOS/V：「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
PLC 通信ポート	CN2：Dsub 15 ピン（凹）	CN1（DU-01）：Dsub 25 ピン（凹） *1
メモリカードへの画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	GD-SFT80/GD-SFT80W で保存し、V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
保護シート	「GD-GS80S」	「V606-GS」

*1　GD-80SE/SL と DU-01 のコネクタが異なるため、通信ケーブルはそのまま使用できません。以下のピン配列を参考にコネクタの変換が必要です。

GD-80S CN2（Dsub15 ピン）

ピン No.	新合名	内容
1	FG	フレームグランド
2	RD	RS-232C 受信データ
3	SD	RS-232C 送信データ
4	CS	RS-232C CS 送信許可
5	RS	RS-232C RS 送信要求
6		
7	SG	シグナルグランド
8		
9	COM	出力コモン
10	+RD	RS-422 受信データ（+）
11	-RD	RS-422 受信データ（-）
12	+SD	RS-422 送信データ（+）
13	-SD	RS-422 送信データ（-）
14	RUN	RUN 信号
15	BZ	ブザー信号

DU-01 CN1（Dsub25 ピン）

ピン No.	新合名	内容
1	FG	フレームグランド
2	SD	RS-232C 送信データ
3	RD	RS-232C 受信データ
4	RS	RS-232C RS 送信許可
5	CS	RS-232C CS 送信要求
6		未使用
7	SG	シグナルグランド
8		未使用
9	+5V	
10	0V	
11		未使用
12	+SD	RS-422 送信データ（+）
13	-SD	RS-422 送信データ（-）
14	+RS	RS-422RS 送信データ（+）
15		未使用
16		未使用
17	-RS	RS-422RS 送信データ（-）
18	-CS	RS-422CS 受信データ（-）
19	+CS	RS-422CS 受信データ（+）
20		未使用
21		未使用
22		未使用
23		未使用
24	+RD	RS-422 受信データ（+）
25	-RD	RS-422 受信データ（-）

GD-80S → V706

GD-80S を V706 に置き換える場合、パネルカット寸法を大きくする必要があります。
また PLC 接続ポート（MJ2）と通信不可能な PLC 機種があります。その場合、「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用する場合、「GD-80S → V706+DU-01」P 44 をご覧ください。

項目	GD-80S	V706+DU-01
表示デバイス	• 高輝度 EL：GD-80SE • STN モノクロ（ホワイトモード）：GD-80SL	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	4.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	158.5 W × 122.5 H	174W × 131H ＊ パネルカットを大きくする必要あり
表示分解能（W × H）	320 × 240 ドット	320 × 240 ドット
タッチスイッチ方式	• マトリックス	• マトリックス • アナログ
タッチスイッチ分解能	10(横) × 6(縦) 個	• アナログ 1024(横) × 1024(縦) • マトリックス 20(横) × 12(縦) 個
画面転送ポート	CN1：Dsub 9 ピン（凹）	• MJ1：モジュラーコネクタ 8 ピン • USB-B
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CPS」 • DOS/V：「GD-CPSV」	• MJ1 の場合 NEC PC98：「V6-CP」+「ADP25-9」 DOS/V：「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
PLC 通信ポート	CN2：Dsub 15 ピン（凹）	MJ2：モジュラーコネクタ 8 ピン *1
PLC 通信ケーブル	-	ケーブルを作り直す必要あり *2
メモリカードへの画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	GD-SFT80/GD-SFT80W で保存し、V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
保護シート	「GD-GS80S」	「V606-GS」

*1 MJ2 と通信不可能な PLC 機種があります。詳しくは別途『V706 ハード仕様書』第 2 章をご覧ください。

*2 GD-80SE/SL（CN2）と V706（MJ2）のコネクタが異なるため、通信ケーブルはそのまま使用できません。以下のピン配列を参考にコネクタの変換が必要です。

GD-80S CN2（Dsub15 ピン）

ピン No.	新合名	内容
1	FG	フレームグランド
2	RD	RS-232C 受信データ
3	SD	RS-232C 送信データ
4	CS	RS-232C CS 送信許可
5	RS	RS-232C RS 送信要求
6		
7	SG	シグナルグランド
8		
9	COM	出力コモン
10	+RD	RS-422 受信データ（+）
11	-RD	RS-422 受信データ（-）
12	+SD	RS-422 送信データ（+）
13	-SD	RS-422 送信データ（-）
14	RUN	RUN 信号
15	BZ	ブザー信号

V706 MJ2（モジュラーコネクタ 8 ピン）

ピン No.	新合名	内容
1	+SD/RD	RS-485 データ（+）
	+SD	RS-422 送信データ（+）
2	-SD/RD	RS-485 データ（-）
	-SD	RS-422 送信データ（-）
3	+5V	外部供給 +5V MAX150mA
4		
5	SG	シグナルグランド
6		
7	RD	RS-232C 受信データ
	+RD	RS-422 受信データ（+）
8	SD	RS-232C 送信データ
	-RD	RS-422 受信データ（-）

スライドスイッチ
上：RS-232C
下：RS-422

GD-81S → V706+DU-01

GD-81S を V706 に置き換える場合、オプションユニット「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用しない場合、「 GD-81S → V706」P 49 をご覧ください。

項目	GD-81S	V706+DU-01
表示デバイス	• STN カラー：GD-81SC • STN モノクロ（ホワイトモード）：GD-81SW • STN モノクロ（ブルーモード）：GD-81SB • 半透過イエロー：GD-81SH	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	199 W × 147 H	174W × 131H 弊社オプション品の取付パネルアダプタ「PAD-V606」使用
表示分解能（W × H）	320 × 240 ドット	320 × 240 ドット
タッチスイッチ方式	• マトリックス	• マトリックス • アナログ
タッチスイッチ分解能	10(横) × 6(縦) 個	• アナログ 1024(横) × 1024(縦) • マトリックス 20(横) × 12(縦) 個
画面転送ポート	CN2：Dsub 25 ピン（凹）	• MJ1：モジュラーコネクタ 8 ピン • USB-B
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CP」 • DOS/V：「GD-CPV」	• MJ1 の場合 NEC PC98：「V6-CP」+「ADP25-9」 DOS/V：「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
プリンタポート	CN4: セントロニクス 14 ピン	なし シリアルまたは USB 接続
プリンタケーブル	PC-9801 用標準プリンタケーブル	• シリアル接続の場合 弊社製ケーブル「V6-TMP」で作成 • USB 接続の場合 市販 USB ケーブル
PLC 通信ポート	CN2:Dsub 25 ピン（凹）	CN1（DU-01）：Dsub 25 ピン（凹） 同じ通信ケーブル使用可能
メモリカードへの画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	GD-SFT80/GD-SFT80W で保存し、V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
保護シート	「GD-GS81S」	「V606-GS」

GD-81S → V706

PLC 接続ポート（MJ2）と通信不可能な PLC 機種があります。その場合、「DU-01」のご使用をお奨めします。「DU-01」を使用する場合、「 GD-81S → V706+DU-01」P 48 をご覧ください。

項目	GD-81S	V706
表示デバイス	• STN カラー：GD-81SC • STN モノクロ（ホワイトモード）：GD-81SW • STN モノクロ（ブルーモード）：GD-81SB • 半透過イエロー：GD-81SH	• TFT カラー：V706T • STN カラー：V706C • STN モノクロ（ホワイトモード）：V706M
有効表示領域	5.7 インチ	5.7 インチ
パネルカット寸法（単位：mm）	199 W × 147 H	174W × 131H 弊社オプション品の取付パネルアダプタ「PAD-V606」使用
表示分解能（W × H）	320 × 240 ドット	320 × 240 ドット
タッチスイッチ方式	• マトリックス	• マトリックス • アナログ
タッチスイッチ分解能	10(横) × 6(縦) 個	• アナログ：1024(横) × 1024(縦) • マトリックス：20(横) × 12(縦) 個
画面転送ポート	CN2：Dsub 25 ピン（凹）	• MJ1：モジュラーコネクタ 8 ピン • USB-B
画面転送ケーブル	• NEC PC98：「GD-CP」 • DOS/V：「GD-CPV」	• MJ1 の場合 NEC PC98：「V6-CP」+「ADP25-9」 DOS/V：「V6-CP」 • USB-B の場合 市販 USB ケーブル
PLC 通信ポート	CN2：Dsub 25 ピン（凹）	MJ2：モジュラーコネクタ 8 ピン　*1
PLC 通信ケーブル	-	• GD-81S の通信ケーブルを活かす場合 MJ ←→ Dsub25 変換ケーブルを接続する • RS-232C：「MJ2-PLC」、「MJ-D25」 • RS-422（4 線）：「MJ2-PLC」 • RS-485（2 線）：「MJ-D25」 • ケーブルを作り直す 『PLC 接続マニュアル』参照
プリンタポート	CN4: セントロニクス 14 ピン	なし シリアルまたは USB 接続
プリンタケーブル	PC-9801 用標準プリンタケーブル	• シリアル接続の場合 弊社製ケーブル「V6-TMP」で作成 • USB 接続の場合 市販 USB ケーブル
メモリカードへの画面データの保存	カードレコーダ「GD-MREC01」	• カードレコーダ「CREC」 • CF カード
REC-MCARD	• 画面転送用 FLASH SRAM	GD-SFT80/GD-SFT80W で保存し、V-SFT で読み込み、V7 用データに変換してから使用
保護シート	「GD-GS81S」	「V606-GS」

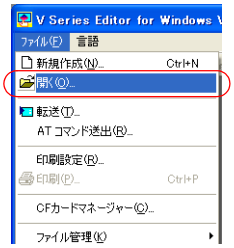
*1　MJ2 と通信不可能な PLC 機種があります。詳しくは別途『V706 ハード仕様書』第 2 章をご覧ください。

画面データファイルの変換

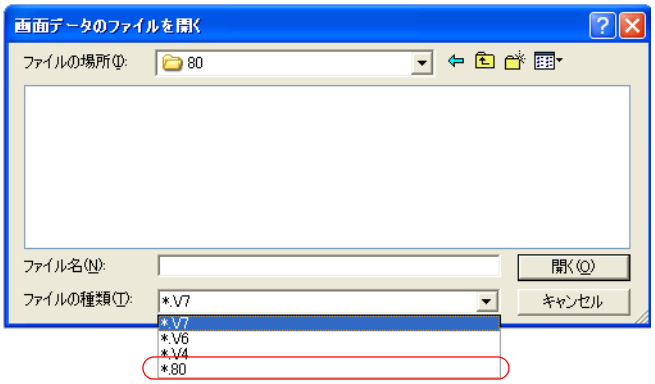
変換手順

1. V-SFT を起動し、［開く］アイコン、または［ファイル］の［開く］をクリックします。

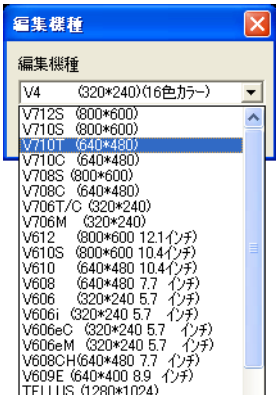
または



2. ［画面データのファイルを開く］ダイアログが表示されます。［ファイルの種類］が［*.V7］になっているので、［*.80］に変更します。



3. 変換する GD-80 シリーズの画面データファイルを指定し、［開く］をクリックします。
4. ［システム設定］の［編集機種］ダイアログが表示されます。変換後の V7 シリーズの機種を選択し、［OK］をクリックします。



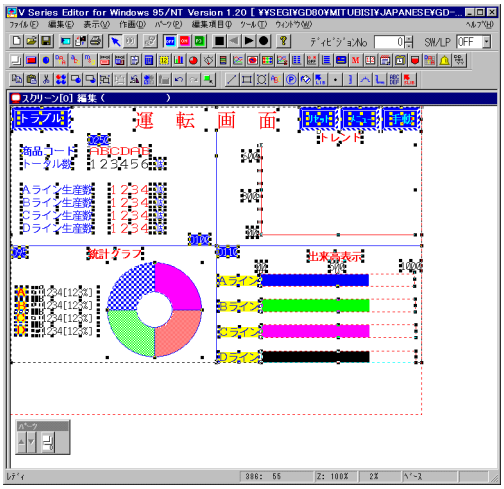
5. エディタ上に V7 シリーズ用に変換された画面データファイルが表示されます。
6. 名前を付けて保存します。

画面サイズの調整

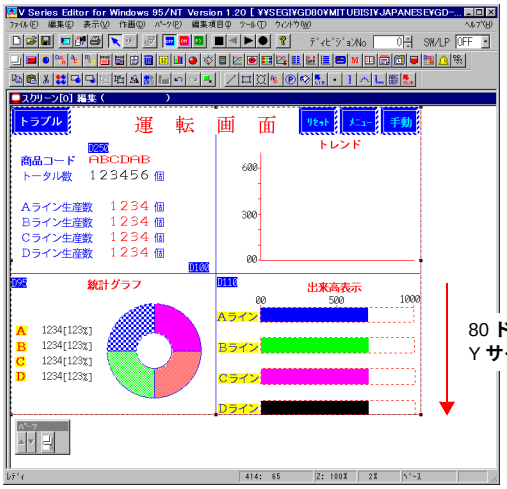
機種によって、画面の解像度が異なります。以下の方法でサイズ調整を行ってください。

*** ただし、マトリックスタイプの V7 に機種変更する場合、スイッチグリッドがずれるおそれがあるため、以下のような拡大方法は使用できません。**

1. ［表示］→［表示環境一括変更］→［グリッド］メニューにおいて、［ON グリッド］、および［スイッチの配置をスイッチグリッドで行う］のチェックをはずします。
2. 画面上のアイテムを全て選択し、グループ化します。

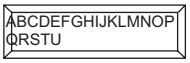


3. グループ化したアイテムの右下隅のハンドルをドラッグし、V7 の画面サイズに合わせます。



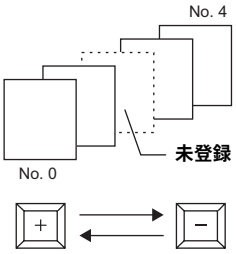
データの互換性

互換機能

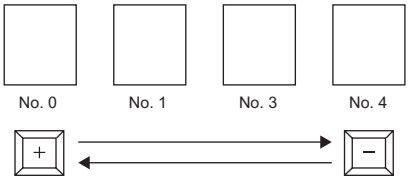
機種 項目	GD-80	V7
連続ブザー音	読込エリア n の 10 ビット目が ON の間、ブザーが鳴り続ける	[本体設定] の [環境設定] メニュー [□連続ブザー音使用する] • チェックあり：GD-80 と同じ動作 • チェックなし：10 ビット目無効
オーバーラップのビット指令	読込エリア n+1 の 12 ビット目が ON の間、オーバーラップが表示する (画面を切り換えても表示する)	[本体設定] の [環境設定] メニュー [□オーバーラップをレベル動作させる] • チェックあり：GD-80 と同じ動作 • チェックなし：12 ビット目はエッジ認識となる (画面を切り換えるとオーバーラップは消える)
文字入力モード	[書込] キーを押した後、続けて文字を入力することができる	[本体設定] の [環境設定] メニュー [□文字入力モードで 1 文字目の入力は、文字列をクリアする] • チェックあり：GD-80 と同じ動作 • チェックなし：クリアキーを押してから入力する
カレンダ表示	メッセージ編集内に曜日用のメッセージを登録する	[カレンダパーツ] として変換され、各カレンダパーツ内の [曜日メッセージ設定] メニューに、自動的にメッセージ編集内のメッセージをコピーし、登録する
バーコードリーダ	[バーコード設定] の [I/F メモリ] で設定したメモリアドレスに入る「読込メモリ数」はワード単位	[本体設定] の [環境設定] メニュー [□バーコードの読み込みデータ数をワード単位で出力する] • チェックあり：GD-80 と同じ表示 (ワード単位) • チェックなし：バイト単位
リレーモード / ページモード / ダイレクトモード [動作：スイッチ / ランプ] の場合	メッセージがスイッチ / ランプの領域からはみ出る場合、はみ出た部分は表示しない 例　スイッチ 「O」の後ろに「P...U」までメッセージが続く	[本体設定] の [環境設定] メニュー [□モード動作：スイッチ / ランプのときメッセージを GD-80 と同じにする] • チェックあり：GD-80 と同じ表示 • チェックなし：はみ出た部分は折り返して表示される 
数値表示	オーバーフロー時には下の桁を表示する 例　D100 ＝ 1234 の場合 4 桁表示＝「1234」 2 桁表示＝「34」	[本体設定] の [環境設定] メニュー [□数値表示：オーバーフロー時、有効桁表示] • チェックあり：GD-80 と同じ表示 • チェックなし：以下の表示 4 桁表示＝「1234」 2 桁表示＝「--」

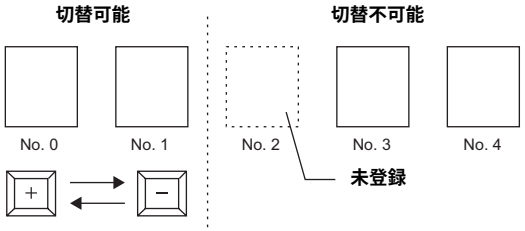
<table>
<tr><th>機種
項目</th><th>GD-80</th><th>V7</th></tr>
<tr><td>数値表示</td><td>［数字形式：BCD］の場合、以下のように本体で表示する
<table><tr><th>PLC 側</th><th>GD-80 側</th></tr><tr><td>0 ～ 9</td><td>0 ～ 9</td></tr><tr><td>A</td><td>./.</td></tr><tr><td>B</td><td>:/：</td></tr><tr><td>C</td><td>-/ －</td></tr><tr><td>D</td><td>+/ ＋</td></tr><tr><td>E</td><td>（スペース）</td></tr><tr><td>F</td><td>（スペース）</td></tr></table></td><td>［本体設定］の［環境設定］メニュー
［□数値表示：BCD の時、A ～ F 特殊表示］

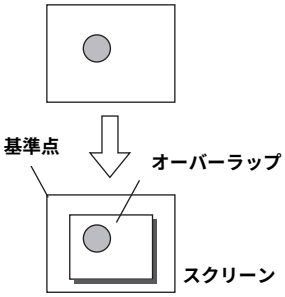
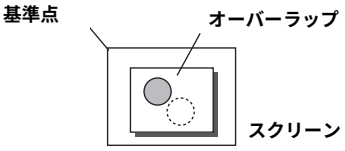
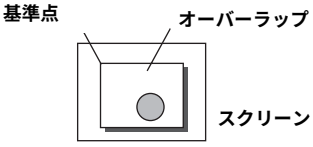
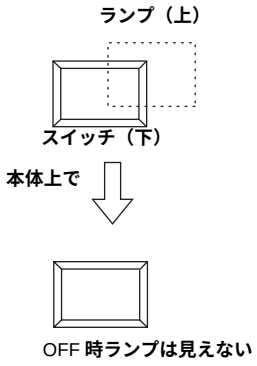
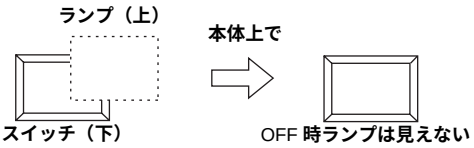
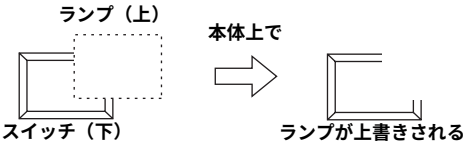
• チェックあり：GD-80 と同じ表示
• チェックなし：「A」～「F」は全て「0」表示</td></tr>
<tr><td>テンキーブロックの切替
（テンキーモード、［動作：+ ブロック /- ブロック］スイッチ）</td><td>切替の対象となる［ブロック No.］の［開始］と［終了］の間に未登録のテンキーブロックがあった場合でも切替を行う

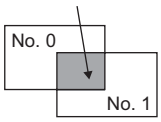
例
 

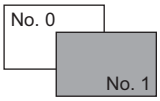
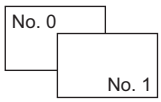
未登録も含めて全てのブロックを切り替える</td><td>［本体設定］の［環境設定］メニュー
［□ +/- ブロック SW 操作時、存在しないテンキーブロックをスキップする］

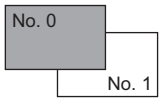
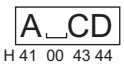
• チェックあり：未登録のブロックをスキップする
 

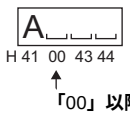
• チェックなし：
未登録のブロックの前でブロック切替が止まる
 
</td></tr>
</table>

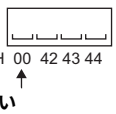
機種 項目	GD-80	V7
オーバーラップ上のグラフィックリレーモード	オーバーラップ上にグラフィックリレーを設定した場合、登録したグラフィックはスクリーンの原点を基準に表示される 例　グラフィックライブラリ  	[本体設定] の [環境設定] メニュー [□オーバーラップ上に存在するグラフィックリレー原点をスクリーン原点で取り扱う] • チェックあり：GD-80 と同じ  • チェックなし： 登録したグラフィックはオーバーラップの原点を基準に表示する 
スイッチ / ランプ	スクリーンの背景色と同じ OFF カラーのスイッチ / ランプを配置した場合、OFF カラーが透過される 例  	[本体設定] の [環境設定] のメニュー [□スイッチ / ランプ :OFF カラーがベースカラーと同じであれば、塗りつぶしを行わない] • チェックあり： エディタ上では上書きされるが、V7 本体は GD-80 と同じ表示状態になる  • チェックなし： エディタ上でも本体でも、上に配置したスイッチ / ランプが必ず上書きされた状態で表示される 

<table>
<tr><th>機種
項目</th><th>GD-80</th><th>V7</th></tr>
<tr><td>スイッチ</td><td>スイッチが 2 個重なった場合、重なった場所を押すと No.（または DIV No.）の大きい方が反応する
ここを押したとき
 

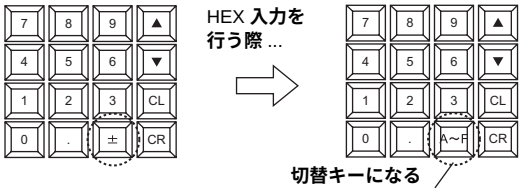
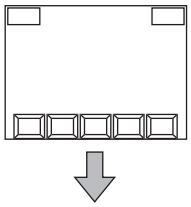
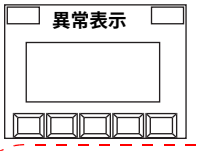
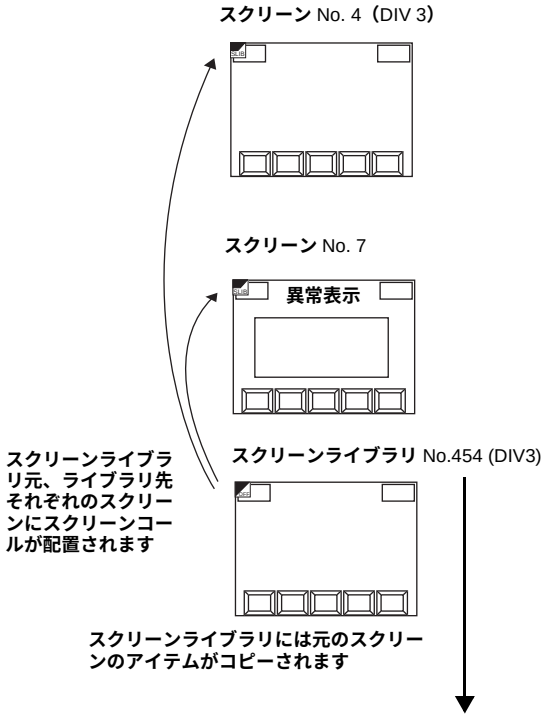
GD-80 本体で
No. 1 が反応する
 
</td><td>エディタ上は、No.（または DIV No.）の小さい方が下、大きい方が上になります。
 

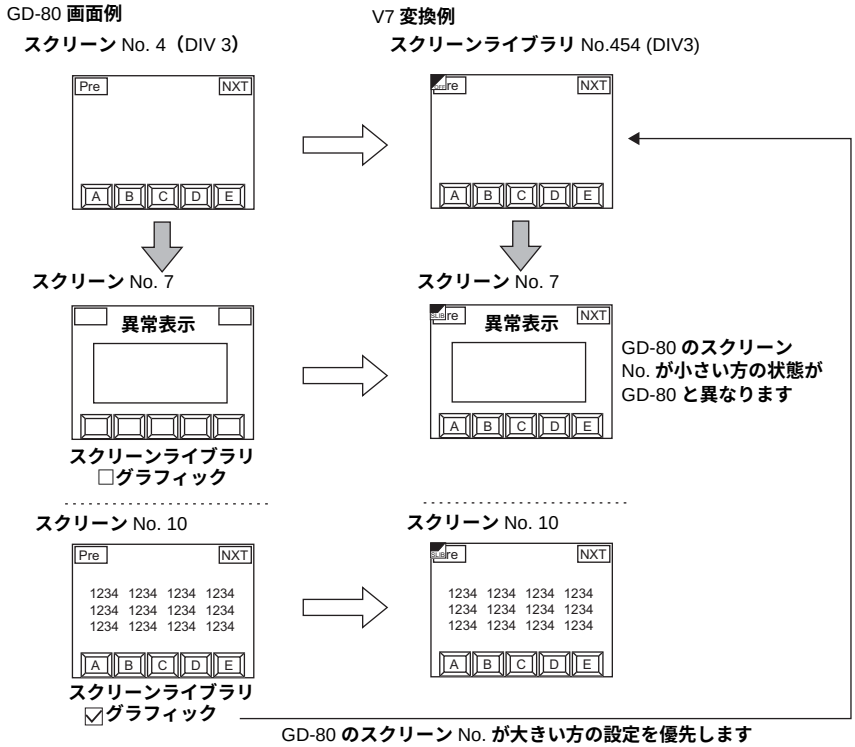
［本体設定］の［環境設定］のメニュー
［□スイッチが重なった時、上のスイッチを有効にする］
• チェックあり：GD-80 と同じ動作
• チェックなし：先に配置した方が反応
No. 0 が反応する
 
</td></tr>
<tr><td>文字表示</td><td>全角（JIS コード）/
半角（ANK/ASCII コード）
を区別している
• 半角
• 全角</td><td>「文字列表示」として変換し、［細かい設定］メニューの［□ JIS/ASCII］で GD-80 の文字表示に対応
→［□ JIS/ASCII］チェックあり、［○半角］
→［□ JIS/ASCII］チェックあり、［○全角］</td></tr>
<tr><td colspan="3">NULL コードの処理（LSB → MSB）
D100 = H0041
D101 = H4443 の場合
 

D100 = H4200
D101 = H4443 の場合
</td></tr>
<tr><td>文字列表示</td><td>ANK/ASCII/ シフト JIS コード</td><td>［細かい設定］メニューの［□ JIS/ASCII］チェックなし</td></tr>
<tr><td colspan="3">NULL コードの処理
（LSB → MSB）
D100 = H0041
D101 = H4443 の場合
 

D100 = H4200
D101 = H4443 の場合
 

「00」以降は表示されない</td></tr>
</table>

機種 項目	GD-80	V7
テンキーモードの HEX 入力キーの切替	テンキースイッチの中の［－ / ＋］キーが自動的に HEX 入力キー切替スイッチになる 例 	スイッチの［機能：80 互換 HEX キー切替］GD-80 と同じ動作
データサンプリング	一番左にカウントが表示される カウント 000 55 113 3345 001 64 119 3450 002 33 106 3250 003 48 121 2956 004 56 107 2246	［サンプリング表示領域］上のデータ［No. 15］を自動的にカウント表示に変換 ［データ［15]］ダイアログ内に［ ☑ サンプルカウント］項目が追加されます ＊ サンプルプリント時に必要なカウント位置設定「C」を自動的に「15」に変換し、カウントとして印刷します。（メッセージ編集内）
スクリーンライブラリ	画面例 スクリーン No. 4（DIV 3）  スクリーン No. 7  スクリーンライブラリ Div2 ☑ スクリーンライブラリ Div No.3 スクリーン No.4 □グラフィック	変換例  変換後のスクリーンライブラリ No. の算出方法 スクリーンライブラリ No. = 元のスクリーン No. + DIV No. x 150 ＝ 4 ＋ 3 × 150 ＝ 454

<table>
<tr><th>機種
項目</th><th>GD-80</th><th>V7</th></tr>
<tr><td>→続き
スクリーンライブラリ</td><td colspan="2">GD-80 でスクリーンライブラリに［ ☑ グラフィック］を指定していれば、スクリーンライブラリに作画が移動します
* GD-80 で同じスクリーンを［□グラフィック］、［ ☑ グラフィック］の条件でスクリーンライブラリ指定した場合は、数値の大きなスクリーンの条件を優先します
 
</td></tr>
<tr><td>読込 / 書込エリア</td><td>-</td><td>［通信パラメータ］の［メイン 1］メニュー
［□読込 / 書込エリア GD-80 互換］
• チェックあり：GD-80 と同じ
• チェックなし：V シリーズと同じ</td></tr>
<tr><td>スクリーンの背景</td><td>• 背景色のみ設定
• 背景グラフィックのみ設定
• 背景色＆背景グラフィック共に設定</td><td>→未登録画面として変換
→グラフィックコールありのスクリーンとして変換
→背景色が設定された、グラフィックコールありのスクリーンとして変換</td></tr>
<tr><td>オーバーラップ</td><td>• ノーマル
DIV0 に登録されていて他に何も登録されていない
• ノーマル
他の DIV にオーバーラップ以外の機能が登録されている、または DIV.0 に登録されていない</td><td>→ GD-80 でのスクリーン No. と同じ No. の［マルチオーバーラップ編集］に自動的に登録される
→スクリーン上にノーマルオーバーラップとして登録される。また、GD-80 でのスクリーン No. と同じ No. の［マルチオーバーラップ編集］にも自動的に登録される</td></tr>
<tr><td>スイッチ / ランプ</td><td>枠タイプ：グラフィック</td><td>スイッチ / ランプの作画編集上に［グラフィックコール］を配置する</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>機種
項目</th><th>GD-80</th><th>V7</th></tr>
<tr><td>スイッチ</td><td>機能［ノーマル］
［ブロック］
［＋ブロック］
［－ブロック］
［モード］
［ビット演算］
の場合の［スイッチメモリ］</td><td>［☑ 出力メモリ］に変換される</td></tr>
<tr><td>リレーモード</td><td>• DIV0
• DIV1
• DIV2
• DIV3</td><td>→［☑ リレー情報出力］書込エリア n+5 に変換される
→［☑ リレー情報出力］書込エリア n+8 に変換される
→［☑ リレー情報出力］書込エリア n+11 に変換される
→［☑ リレー情報出力］書込エリア n+14 に変換される</td></tr>
<tr><td>テンキーモード</td><td>－</td><td>入力モード
• ［指令メモリ］は GD-80 の時の各形式の内容と同じ
• ［情報出力メモリ］は書込エリア n+2 に変換
• テンキーパッド上の文字列
［0］～［9］および［.］は、スクリーン上の作画文字列として変換される一方、［スイッチ］ダイアログ内でも半角文字で［0］～［9］、［.］が入る。ただしスイッチ内の文字は作画文字列と重ならないよう、画面範囲外に配置される</td></tr>
<tr><td></td><td>［形式：直接］</td><td>• ［形式：直接］
• 画面上の数値表示は［表示機能：なし］</td></tr>
<tr><td></td><td>［形式：間接］</td><td>• ［形式：データ表示］
• ［書込先メモリ：出力メモリ］
• ［入力項目選択：外部］
• ［☑ GD-80 互換］
元のスクリーンにオーバーラップがない場合は［4］
オーバーラップがある場合はその DIV No. が入る
• 画面上の数値表示は［表示機能：入力対象］
［選択順］は以下のように自動的に変換される
<table><tr><th colspan="2">GD-80</th><th>V7</th></tr><tr><th>DIV No.</th><th>データ No.</th><th>選択順</th></tr><tr><td>0</td><td>0～31</td><td>0～31</td></tr><tr><td>1</td><td>0～31</td><td>32～63</td></tr><tr><td>2</td><td>0～31</td><td>64～95</td></tr><tr><td>3</td><td>0～31</td><td>96～127</td></tr></table></td></tr>
<tr><td></td><td>［形式：ブロック］</td><td>• ［形式：ブロック］
• ［書込先メモリ：出力メモリ］
• ［入力項目選択：内部］
• ［GD-80 互換］は設定不可（ただし「あり」で変換）
• テンキーブロックに関する設定は［データブロックエリア］モードとして DIV4 に変換される
◎［データブロックエリア］モード
・［ディビジョン No：4］
・［指令：内部］
・［初期ブロック / 最小ブロック：（［開始］No. を設定）］
・［最大ブロック：（［終了］No. を設定）］
・［項目選択：なし］（必要に応じて各自で設定）
・［GD-80 互換：あり］</td></tr>
</table>

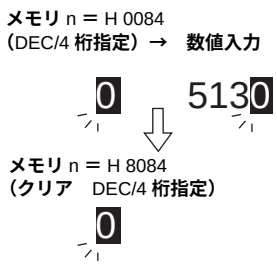
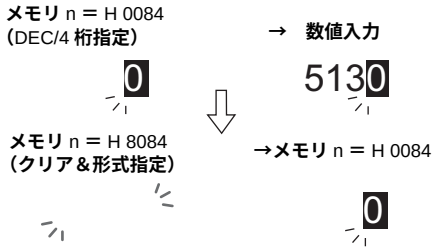
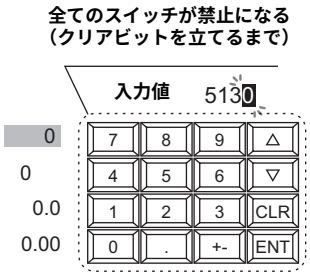
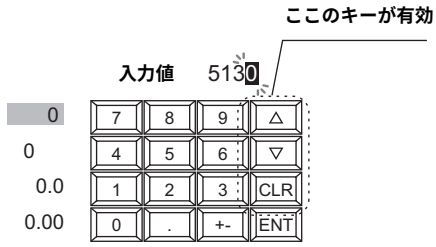
機種 項目	GD-80	V7
テンキーモード	［形式：ブロックダイレクト］	• ［形式：ブロック］ • ［書込先メモリ：ダイレクト］ • ［入力項目選択：内部］ • ［GD-80 互換］は設定不可（ただし「あり」で変換） • テンキーブロックに関する設定は［データブロックエリア］モードとして DIV4 に変換される ◎［データブロックエリア］モード ・［ディビジョン No：4］ ・［指令：(GD-80 と同じ)］ ＊［外部］の場合［ブロック No. 読込メモリ］は［入力モード］の［指令メモリ］と同じに設定 ・［項目選択：あり］ ＊［入力モード］の［指令メモリ］n+1［2］ワードに設定 ・［GD-80 互換：あり］
	［形式：マルチ］	• ［形式］、［書込先メモリ］、［入力項目選択］［GD-80 互換］は［形式：ブロックダイレクト］の場合と同じ • テンキーブロックに関する設定も［形式：ブロックダイレクト］の場合の［データブロックエリア］モードとほぼ同じ ＊［指令：外部］の場合、［ブロック No. 読込メモリ］は［入力モード］の［指令メモリ］と同じ設定にする。ただし、テンキーモードを設定したオーバーラップが別のスクリーンに登録されていた場合（＝マルチオーバーラップ使用時)、［ブロック No. 読込メモリ］は一時的に［$u4000］に変換されます。ユーザーで［入力モード］の［指令メモリ］と同じメモリに設定してください。
文字入力モード	－	入力モード • ［形式：データ表示］ • ［指令メモリ］は GD-80 の時の各形式の内容と同じ • ［情報出力メモリ］は書込エリア n+2 に変換 • ［書込先メモリ：ダイレクト］ • ［入力項目選択：内部］ • ［細かい設定］メニュー ［ ☑ グラフィック使用する］ ＊［スタートグラフィック］［エンドグラフィック］ともに GD-80 の［初期ライブラリ No］の値を入れるため、［エンドグラフィック］については必要な場合は手動設定要） • 画面上の文字列表示は［表示機能：入力対象］

<table>
<tr><th>機種
項目</th><th>GD-80</th><th>V7</th></tr>
<tr><td>統計グラフモード</td><td>-</td><td>• 以下のようなディビジョン No. に変換します

<table><tr><td>DIV No.</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>Graph No.</td><td>0 1 2 3</td><td>0 1 2 3</td><td>0 1 2 3</td></tr><tr><td>V7 DIV No.</td><td>0 10 11 12</td><td>1 20 21 22</td><td>2 30 31 32</td></tr></table>
<table><tr><td>DIV No.</td><td>3</td></tr><tr><td>Graph No.</td><td>0 1 2 3</td></tr><tr><td>V7 DIV No.</td><td>3 30 31 32</td></tr></table>
• ［実績：あり］の場合、［表示機能：なし］の数値表示が統計グラフと同じディビジョン No. に設定される各数値表示の［メモリ］は統計グラフの［メモリ］に合わせたアドレスになる
• ［%：あり］の場合、［表示機能：統計グラフ%表示］の数値表示が統計グラフと同じディビジョン No. に設定される</td></tr>
</table>

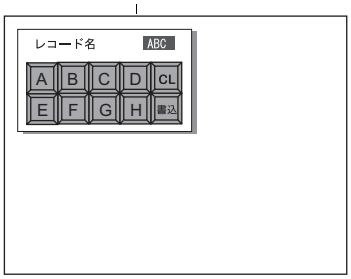
互換にならない機能

機種 項目	GD-80	V7
汎用シリアル通信	GD-80 専用の汎用シリアル通信用プロトコルを使用する	V シリーズ専用の汎用シリアル通信用プロトコルを使用するため、互換性なし
通信パラメータ	ボーレート 1200、2400bps サポート	ボーレート 1200、2400bps 未サポート 4800bps に自動変換される
表示文字	X、Y 拡大係数がいくつでも表示文字は変わらず	X、Y 拡大係数が偶数倍の文字については、自動的に 32 ドットフォントで表示されるため、GD-80 の時と多少イメージが異なる * ただし［フォント設定］において［フォント］を［日本語 32］から［日本語］にすると GD-80 のイメージに近くなる
オーバーラップ［タイプ：マルチ］	メモリ n： • 表示中 表示しているオーバーラップが登録されているスクリーン No. が入る • 非表示 最後に入っていた No. が残る	メモリ n： • 表示中 表示しているオーバーラップが登録されている［マルチオーバーラップ編集］内の No. が入る • 非表示 「-1」（= H FFFF）が入る
スイッチ / ランプの文字列	作画文字列で作成	作画文字列として変換される ［スイッチ］（または［ランプ］）ダイアログ内の文字列としては変換されない

機種 項目	GD-80	V7
テンキーモード [形式：直接]	メモリ n： クリア（15 ビット目） このビットを ON した時点（0 → 1）で、テンキーの書込フラグおよび入力表示の値がクリアされる 	入力モードの［指令メモリ］n： クリア（15 ビット目） このビットを ON すると、書込フラグがクリアされるが入力表示そのものが消えてしまう 再度クリアビット（15 ビット目）を OFF してデータの形式、桁数などを指定すると、入力可能となる 
テンキーモード [形式：ブロック]	メモリ n： クリア（15 ビット目） テンキーで入力後、キーは全く効かない 15 ビット目の立ち上がり（0 → 1）でテンキーの書込フラグがクリアされ、テンキーの禁止状態が解除される 	入力モードの［指令メモリ］n： クリア（15 ビット目） テンキーで入力後、数字キーは効かないが、クリア（CL）キーが有効なため、一旦クリアキーを押せばテンキーは効く また「↓」「↑」キーも常時有効なため、次の入力対象データにカーソルを移せばテンキーは受け付ける そのため、このビット本来の役割である「フラグクリア」機能は V7 では無効 
トレンドグラフ	コントロールメモリ： 各［No 詳細］で指定したメモリ n （折れ線の数だけ n が存在する） グラフ値用メモリ： 各［No 詳細］で指定したメモリ n+1 ～	コントロールメモリ： GD-80 のグラフの No. 0 で指定されたメモリ n のみ（全ての折れ線をメモリ n だけでコントロールする） グラフ値用メモリ： 各［No 詳細］で指定したメモリ n+1 ～
サンプリング（ビット / データ / トレンド）	［ロールアップ］/［ロールダウン］/［プラスブロック］/［マイナスブロック］スイッチでサンプリングデータをスクロールする際、表示エリア上には何も表示されない	［ロールアップ］/［ロールダウン］/［プラスブロック］/［マイナスブロック］スイッチでサンプリングデータをスクロールする際、カーソルが表示され、現在選択されているデータがわかりやすい

機種 項目	GD-80	V7
サンプリング（トレンド）	カウント表示は本体で初めて表示される グラフ左下に基準点のカウントを表示する	グラフ左下に、数値表示［表示機能：サンプルカウント表示］［桁数：3］［文字種：1/4］を配置する 現在のカウントを表示する
サンプリング（ビット）	領域内表示とメッセージとの間に半角 1 文字分のスペースが空く	領域内表示とメッセージとの間に半角 4 文字分のスペースが空く
メモリカードモード	カード No / カード名 / ファイル名 / レコード名編集 編集・入力した No./ 名前は一旦 PLC メモリに格納される	カード No / カード名 / ファイル名 / レコード名編集 No./ 名前はメモリカードに直接書き込まれるため、PLC メモリには何も格納しない
	スイッチの［動作］ •［ファイル選択］ •［レコード選択］ •［リスト内選択完了］ カード内のファイル / レコードを選択する場合は、［ファイル選択］→①［リスト内選択完了］→②［リスト内選択完了］または［レコード選択］→［リスト内選択完了］という手順で行う	スイッチの［機能］ →［ファイル選択］ →［レコード選択］ →（なし） カード内のファイル / レコードを選択する場合は、［ファイル選択］→①②（表示領域を押す）または［レコード選択］→（表示領域を押す）という手順で行う GD-80 での［リスト内選択完了］スイッチに代わって、表示領域を押すという操作になる
	スイッチの［動作］ •［ファイル名編集］ •［レコード名編集］ 先にファイルまたはレコードを選択してから、［ファイル名編集］または［レコード名編集］を押すと、文字入力モードが設定されたマルチオーバーラップが表示される	スイッチの［機能］ →［ファイル名編集］ →［レコード名編集］ 先に［ファイル名編集］または［レコード名編集］スイッチを押して ON 表示させてから、ファイルまたはレコードを選択すると、入力モードの設定されたマルチオーバーラップが表示される

<table>
<tr><th>機種
項目</th><th>GD-80</th><th>V7</th></tr>
<tr><td>メモリカードモードの No/ 名編集</td><td>• 必ずマルチオーバーラップを使用する
• No/ 名前編集用テンキーモード / 文字入力モードの［メモリ］12 ビット目（書込許可）を ON しないと編集不可
• ［書込］キーを押した時点でオーバーラップが消去し、カード No. またはカード名 / ファイル名 / レコード名が入力される

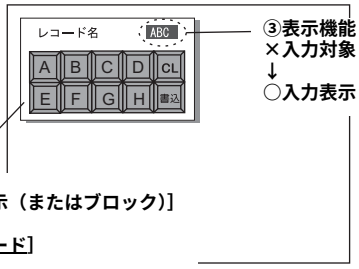
スクリーン No.20
 

GD-80 でノーマルオーバーラップ以外に何も登録してないスクリーンの場合</td><td>変換された状態のままでは使用不可能

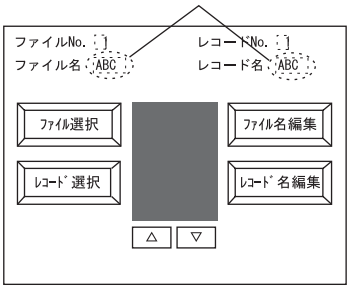
• 以下の点に注意すること
①［タイプ：マルチ］用のノーマルオーバーラップがスクリーンに登録されたままの場合、［マルチオーバーラップ編集］のスクリーン No. と同じエリアに移し変える
②オーバーラップ上の入力モードは必ず［形式：メモリカード］に変更する
③オーバーラップ上の入力モードと同じ DIV に、必ず［表示機能：入力表示］の［数値表示］パーツまたは［文字列表示］パーツを配置する
④オーバーラップ上に［データブロックエリア］が設定されている場合は、必要ないので削除する
⑤各名前表示パーツは、自動的に「3 バイト」で変換されるため、必要に応じて［バイト数］の設定を変更する

以上の設定を行うとメモリカードモードは正常に動作します

• ［入力］モードの［指令メモリ］の操作は必要なし

① V7 で自動的にマルチオーバーラップ編集の同じ No. にノーマルオーバーラップが登録される
 

③表示機能
×入力対象
↓
○入力表示
②入力モード
×［形式：データ表示（またはブロック）］
↓
○［形式：メモリカード］
マルチオーバーラップ編集 No.20（V7）

⑤［バイト数］の確認
 

スクリーン No.19（V7）</td></tr>
<tr><td>ライン</td><td>全 8 種類のうち 4 種類は自由に編集が可能</td><td>不可能
全 6 種類で固定線種</td></tr>
</table>

GD-MREC02 からの変換

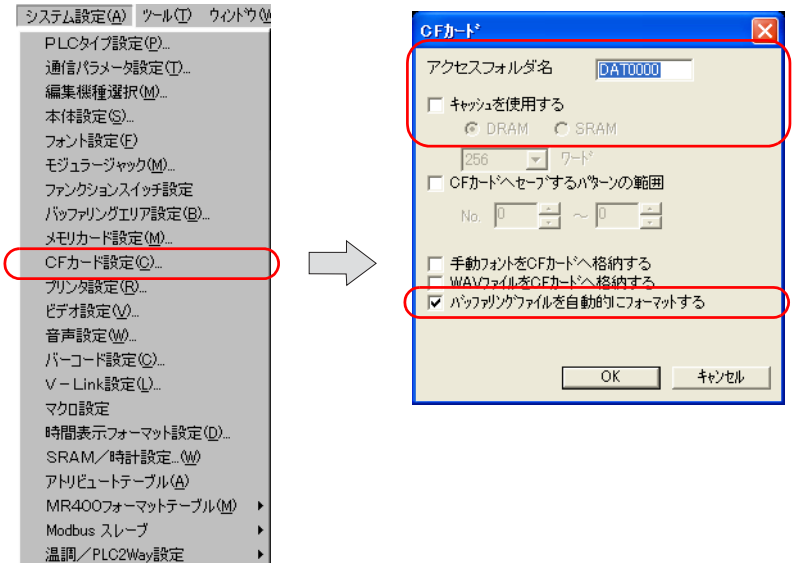
V7 シリーズに変換する際には、CF カードを使用する場合と CREC を使用する場合の 2 通りがあります。ただし、どちらの場合も、画面データファイルを V7 シリーズに変換した後で、それぞれに必要な設定を行わなければなりません。

CF カードに置き換える場合

画面データの変換

以下の手順で行います。

1. GD-80 から V7 に変換した画面データファイルを開きます。
2. ［システム設定］の［CF カード設定］をクリックします。［CF カード］ダイアログが表示されます。



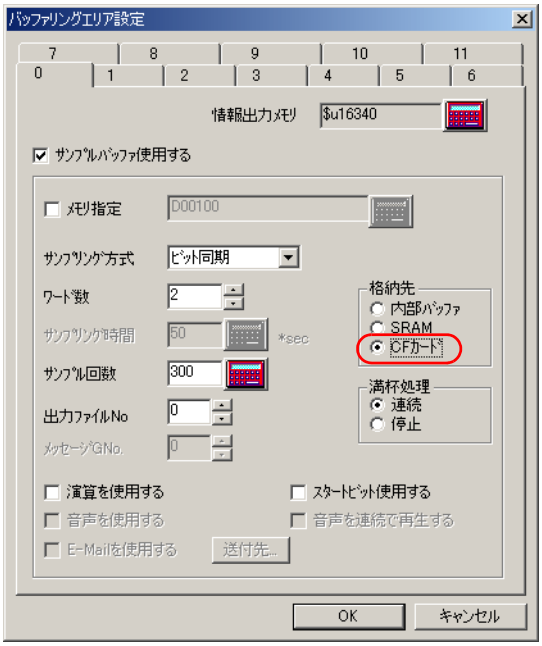
3. ［アクセスフォルダ名］において、任意の名前（半角大文字英数字 8 文字）を設定します。
4. データロギング機能を使用している場合［CF カード］ダイアログにおいて、［□キャッシュを使用する］および［□バッファリングファイルを自動的にフォーマットする］の設定を行います。

   - ［□キャッシュを使用する］
     - チェックなし
       毎回 CF カードにロギングデータを書き込みます。電源が急にダウンしてもデータは保持しますが、頻繁に（例えば数秒間隔で）サンプリングを行うと、CF カードの寿命が短くなります。
     - チェックあり :DRAM
       V7 本体に一時保管用の DRAM キャッシュメモリを確保し、サンプリングデータを格納します。キャッシュメモリ満杯時など、決まったタイミングで CF カードに書き込み動作を行うため、CF カードの寿命は長くなります。ただし DRAM なので、突然電源が落ちた場合にはキャッシュメモリを保持できない可能性もあります。

- **チェックあり** :SRAM
  V7 本体に一時保管用の SRAM **キャッシュメモリを確保し、サンプリングデータを格納します。キャッシュメモリ満杯時など、決まったタイミングで ＣＦ カードに書き込み動作を行うため、**CF **カードの寿命は長くなります。また** SRAM **なので、突然電源が落ちた場合にもデータは保持されます。**

キャッシュについて、詳しくは『リファレンスマニュアル（機能編）』の「第 23 **章　**CF **カード」を参照してください。**

- **[☑バッファリングファイルを自動的にフォーマットする]**
  GD-80 **からの変換の場合は、必ずチェックありに設定します。**
- **[バッファリングエリア設定]において［格納先：**CF **カード］に変更します。**



5. **設定を終えたら、画面データを保存し、**V7 **シリーズ本体に転送します。**

メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合）

レシピ用などに使用していたデータは、一旦パソコンに取り込み、CF カード用に変換し、書き込む必要があります。使用するソフトは以下のとおりです。

A. メモリカードのデータを取り込む
メモリカードエディタ「M-CARD SFT」を使用します

B. A のデータを CF カード用に変換し、CF カードに書き込む
V-SFT の「CF カードマネージャー」を使用します

以下の手順で行います。

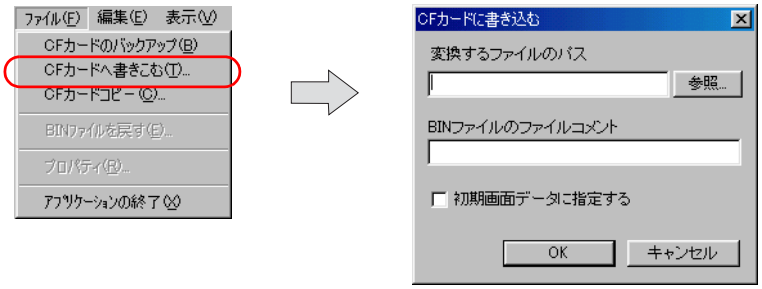
A. メモリカードのデータを取り込む

1. GD-80 で使用していた SRAM メモリカード内のデータを、メモリカードエディタ「M-CARD SFT」を使って読み込み、保存します。保存したデータファイルは拡張子［.mcd］のファイルになります。

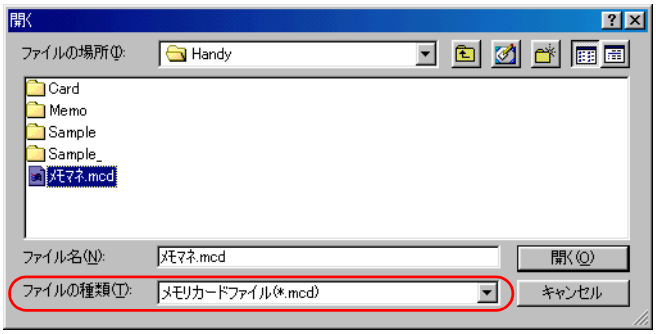
メモリカードエディタについて、詳しくは別途『M-CARD SFT 取扱説明書』を参照してください。

B. データを CF カード用に変換し、CF カードに書き込む

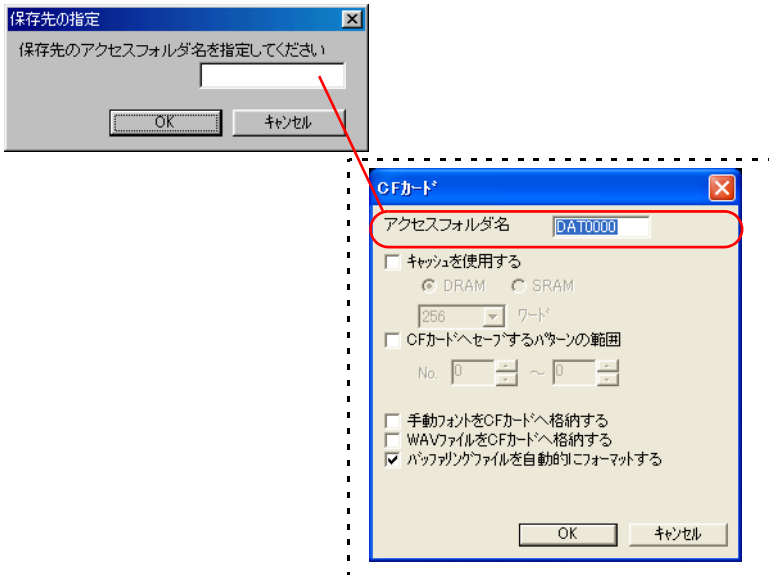
2. パソコンで CF カードを読み書きできる環境（CF カードリーダライターなどを準備）にします。
3. V-SFT を起動し、［ファイル］の［CF カードマネージャー］をクリックします。CF カードのドライブを指定し、［OK］をクリックすると、［CF カードマネージャー］が起動します。
4. ［ファイル］の［CF カードへ書きこむ］をクリックします。以下のダイアログが表示されます。



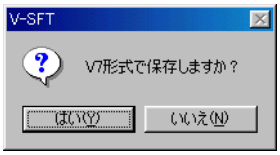
5. ［変換するファイルのパス］の［参照］ボタンをクリックし、以下のように、［ファイルの種類］で［メモリカードファイル（*.mcd)］を選択します。



6. 1. で保存したファイルを選択し、［開く］をクリックして、元の［CF カードに書きこむ］ダイアログに戻ります。
7. ［OK］をクリックします。［保存先の指定］ダイアログが表示されます。



8. 先の「 画面データの変換」P 64 の 3. において設定した［アクセスフォルダ名］と同じ名前を指定し、［OK］をクリックします。
9. 以下のような確認メッセージが表示されます。［はい］をクリックします。



10. CF カードに 8. の名前のフォルダが作成されます。そのアクセスフォルダの下の［Card］フォルダ内に、以下のファイルが作成されていることを確認します。Mcmxxxx.bin（xxxx：0 ～ 15）Mcmhead.bin
11. この CF カードを V7 本体の CF カードソケットに挿入します。GD-80 と同様にデータの読み書きが可能となります。

CREC に置き換える場合

GD-80 で使用していた SRAM メモリカードを使用する場合は、カードレコーダ「CREC」を使用します。ただし、SRAM カードは、そのまま CREC に差し込んで使用することはできません。M-CARD SFT で編集機種を変更してください。また、画面データファイルの変換時にも必要な設定があります。

画面データの変換

以下の手順で行います。

1. GD-80 から V7 に変換した画面データファイルを開きます。
2. ［システム設定］の［モジュラージャック］をクリックします。［モジュラージャック］ダイアログが表示されます。
3. ［モジュラージャック 2］または［モジュラージャック 1］において、［カードレコーダ］を選択します。
4. 設定を終えたら、画面データを保存し、V7 シリーズ本体に転送します。

メモリカード内のデータ変換（メモリマネージャ機能の場合）

以下の手順で行います。

1. GD-80 で使用していた SRAM メモリカード内のデータを、メモリカードエディタ「M-CARD SFT」を使って読み込みます。
2. ［ファイル］の［編集機種選択］をクリックします。［選択］ダイアログが表示されます。
3. ［接続機種］を「V7」に変更し「OK」をクリックします。
4. ［ファイル］の［メモリカードへ書き込む］をクリックします。
   データが SRAM カードに書き込まれます。

メモリカードエディタについて、詳しくは別途『M-CARD SFT 取扱説明書』を参照してください。

後は V7 本体において、［カードレコーダ］に設定したモジュラージャック側に CREC を接続し、SRAM メモリカードを挿入してください。GD-80 と同様にデータの読み書きが可能となります。

モニタッチ
MONITOUCH

技術相談サービスのご案内

モニタッチについて、お客様より直接ご相談をお受けする「技術電話相談サービス」を開設しております。

相談窓口

技術相談窓口　TEL(076)274-5130
FAX(076)274-5208

発紘電機株式会社

営業窓口　〒924-0035　石川県松任市上柏野町890番1
発紘電機㈱　開発センター
TEL(076)274-5210／FAX(076)274-5200
東京営業所　TEL(03)3255-0166㈹／FAX(03)3255-0298
名古屋営業所　TEL(052)789-0096㈹／FAX(052)789-0098
大阪営業所　TEL(06)6385-8234㈹／FAX(06)6385-7851

本社　〒924-0035　石川県松任市上柏野町238番
TEL(076)274-6911㈹／FAX(076)276-6006

5052NJ0　41100000